長野県松本市

OKADATANAKA

岡田田中遺跡

－第２次発掘調査報告書－

2019.3

松本市教育委員会

例　言

1　本書は、平成28年8月8日～平成29年2月24日に実施された、長野県松本市大字岡田下岡田76番地ほかに所在する岡田田中遺跡の第2次発掘調査報告書である。

2　本調査は、松本市岡田東土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査であり、土地区画整理組合より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を行ったものである。

3　本書の執筆分担については、以下のとおりである。

第Ⅱ章・第Ⅲ章第3節4：古林舞香、第Ⅲ章第3節3：白鳥文彦、その他：小山奈津実

4　本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。

遺物洗浄・注記　佐々木正子・洞澤文江

遺物保存処理・接合復元　佐々木正子・洞澤文江

遺物実測・トレース　（土器、土製品）竹平悦子・直井槙之介

（石器・石製品）白鳥文彦

（金属製品）洞澤文江

遺構図整理・トレース　荒井留美子

写真撮影　（遺構）小山奈津実・山口祥子・山本紀之

（空中写真）㈱みすず綜合コンサルタント松本営業所

（遺物）宮嶋洋一

一覧表作成　（遺構）荒井留美子・小山奈津実・古林舞香

（土器、土製品）古林舞香

（石器・石製品）白鳥文彦

（金属製品）古林舞香・洞澤文江

ＤＴＰ　荒井留美子・小山奈津実・白鳥文彦・直井槙之介・古林舞香

5　本書で用いた略記は次のとおりである。

第○号土坑→土○、第○号溝址→溝○

6　図中で使用した方位は真北を示す。また、遺構図中に示した国家座標値（世界測地系・第8系）は、東北太平洋沖地震後の補正値である。

7　図類の縮尺は、遺構：1/40、土器：1/3・1/4、土製品：1/3、石器・石製品：2/3、金属製品：1/1・1/2で掲載した。写真図版の縮尺は、遺構：不同、遺物：石器・石製品は2/3・不同、その他は不同で掲載した。

8　本書では以下のものをスクリーントーンで表した。

遺物：黒色土器　　溶滓

9　土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』に準拠している。

10　土器実測図の断面白抜きは縄文土器・土師器・黒色土器・土師質土器、黒塗りは須恵器・陶磁器・炻器を示す。

11　本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒399-0823 長野県松本市中山3738-1　TEL 0263-86-4710　FAX 0263-86-9189）に保管している。

目　次

例言
目次
第Ⅰ章　調査経緯
　第１節　調査経過……5
　第２節　調査体制……6
第Ⅱ章　遺跡の環境
　第１節　地理的環境……7
　第２節　歴史的環境……7
　第３節　過去の調査成果……10
第Ⅲ章　調査成果
　第１節　調査の概要……11
　第２節　遺構
　　1　土坑……17
　　2　溝址……17
　第３節　遺物
　　1　土器・陶磁器……26
　　2　土製品……32
　　3　石器・石製品……32
　　4　金属製品……34
第Ⅳ章　総括……36
写真図版
報告書抄録

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表……9
第２表　土坑一覧表……17
第３表　土器・陶磁器観察表……28
第４表　土製品一覧表……32
第５表　石器・石製品一覧表……33
第６表　金属製品一覧表……34
第７表　岡田地区で確認した中世の遺跡……36

図目次

第１図　調査地の位置と周辺遺跡……8
第２図　事業対象地と調査区の範囲……12
第３図　A・B区、１・６tr 全体図……13
第４図　C区、５tr 全体図……14
第５図　D・E区、２tr 全体図……15
第６図　調査地の標準土層模式図……16
第７図　土坑(1)……20
第８図　土坑(2)……21
第９図　土坑(3)……22
第10図　土坑(4)……23
第11図　土坑(5)……24
第12図　土坑(6)、溝址……25
第13図　土器・陶磁器(1)……30
第14図　土器・陶磁器(2)……31
第15図　土製品……32
第16図　石器・石製品……33
第17図　金属製品……35

写真図版目次

写真図版１　調査地遠景
写真図版２　調査区全景(1)
写真図版３　調査区全景(2)
写真図版４　調査区全景(3)、遺構(1)
写真図版５　遺構(2)
写真図版６　遺物(1)
写真図版７　遺物(2)
写真図版８　遺物(3)
写真図版９　遺物(4)

第Ⅰ章　調査経緯

第1節　調査経過

松本市岡田東土地区画整理組合（以下「組合」という。）により松本市大字岡田下岡田76番地ほかで土地区画整理事業が計画されたが、予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である岡田田中遺跡に該当していた。そのため、松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では平成28年2月22日～3月15日に事業地内で試掘確認調査を実施した。その結果、縄文時代～中世の遺構・遺物を検出し、対象地内の広範囲に遺跡が残存していることが確認された。この結果に基づき事業者である組合と協議を行い、遺跡が破壊される範囲について発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。発掘調査とこれに係る事務処理については市教委が実施することとし、組合と松本市の間に平成28年7月25日付で発掘調査業務の委託契約が締結された。

現地での発掘調査は平成28年8月8日～平成29年2月24日に実施した。調査終了後、平成29年3月10日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。また、2月24日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、3月7日付で県教委より埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け9月6日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、9月12日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

本発掘調査に係る文書等の記録は以下のとおりである。

＜平成27年度＞

2月18日　「公共事業に伴う農地転用届書（一時転用）」を農業委員会に提出

2月22日～3月15日　市教委が試掘確認調査実施

＜平成28年度＞

7月25日　組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

8月8日～2月24日　市教委が発掘調査実施

2月24日　「埋蔵物発見届」「埋蔵文化財保管証」を市教委が松本警察署、県教委に提出

3月7日　「文化財の認定及び県帰属について」県教委から市教委に通知

3月10日　「発掘調査終了報告書」を市教委が県教委に提出

3月17日　松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

＜平成29年度＞

4月1日　組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

9月6日　「出土文化財譲与申請書」を市教委が県教委へ提出

9月12日　「出土文化財の譲与について」県教委から市教委に通知

3月23日　松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

＜平成30年度＞

4月2日　組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

第２節　調査体制

＜平成 28 年度＞

調査団長　　赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当　　小山奈津実（主事）、山本紀之（嘱託）、山口祥子（同）

事務局　　松本市教育委員会文化財課

木下守（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井了（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

＜平成 29 年度＞

調査団長　　赤羽郁夫（松本市教育長）

報告書担当　小山奈津実（主事）、山口祥子（嘱託）

事務局　　松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長）、三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

＜平成 30 年度＞

調査団長　　赤羽郁夫（松本市教育長）

報告書担当　小山奈津実（主事）、白鳥文彦（嘱託）、古林舞香（同）

事務局　　松本市教育委員会文化財課

大竹永明（課長）、三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

＜調査員＞

田中正治郎、宮嶋洋一

＜発掘協力者＞

朝倉秀明、芦澤雅量、伊藤節子、今井文雄、太田行信、大滝清次、折井完次、加藤朝夫、川崎勝英、小林伸一、坂口ふみ代、猿楽あい子、清水陽子、鈴木高、関口滋、曽根原裕、田中重正、田中勇一郎、茅野信彦、鳥井和幸、中村明、林秋好、降籏弘雄、三谷久美子、道浦久美子、宮澤昭敬、百瀬泰宏、柳さおり、山崎素行

＜整理協力者＞

天野雅代、荒井留美子、市川二三夫、内田和子、久保田瑞恵、佐々木正子、澤柳宜子、竹内直美、竹平悦子、直井槙之介、原田梨恵、洞澤文江、前沢里江、三澤栄子、宮本章江、村山牧枝

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

岡田地区の位置と地形　岡田田中遺跡は、松本市街地の北方、女鳥羽川右岸の岡田地区に位置する。西は城山丘陵から続く低い丘陵地帯、東は女鳥羽川を挟み本郷地区と隣接している。標高は 670 m前後である。地区一帯は山間部を抜けた後南流する女鳥羽川により形成された扇状地で、北から南、西から東へ下る緩斜面が続き、南東に位置する薄川扇状地にぶつかる。この扇状地は古女鳥羽川によって河岸段丘が形成されており、女鳥羽川右岸には三段に及ぶ段丘面が認められる。

岡田田中遺跡の立地　当遺跡は女鳥羽川扇状地の扇央寄り、河岸段丘の２段目である中位段丘面上に位置している。今回の調査地は遺跡の東端付近にあたり、扇状地の西側を南北に走る国道 143 号線が遺跡の東に重なる。200 mほど西には岡田神社が建っており、東西に走る神社の旧参道が調査地北側に接している。周囲は住宅街に囲まれ、やや北上すると段丘面に沿って水田が広がっている。

第２節　歴史的環境

岡田地区周辺には旧石器時代から中世にかけて多くの遺跡が分布しているが、その多くが奈良・平安時代の集落跡である。この地区は五畿七道の１つである東山道のルート上に位置すると推定されており、古来より交通の要衝であった。また、岡田神社は延長５年（927）に編纂された『延喜式』神名帳に記載のある式内社であることから、『延喜式』の成立以前から岡田の地域が拓かれていたことが窺える。

近年は宅地化やほ場整備事業に伴い発掘調査が数多く実施されている一方で、未だに遺物散布地としてしか把握されていない遺跡も存在する。以下は過去の発掘調査の成果を中心に、時代別に岡田地区周辺の遺跡を概観していきたい。

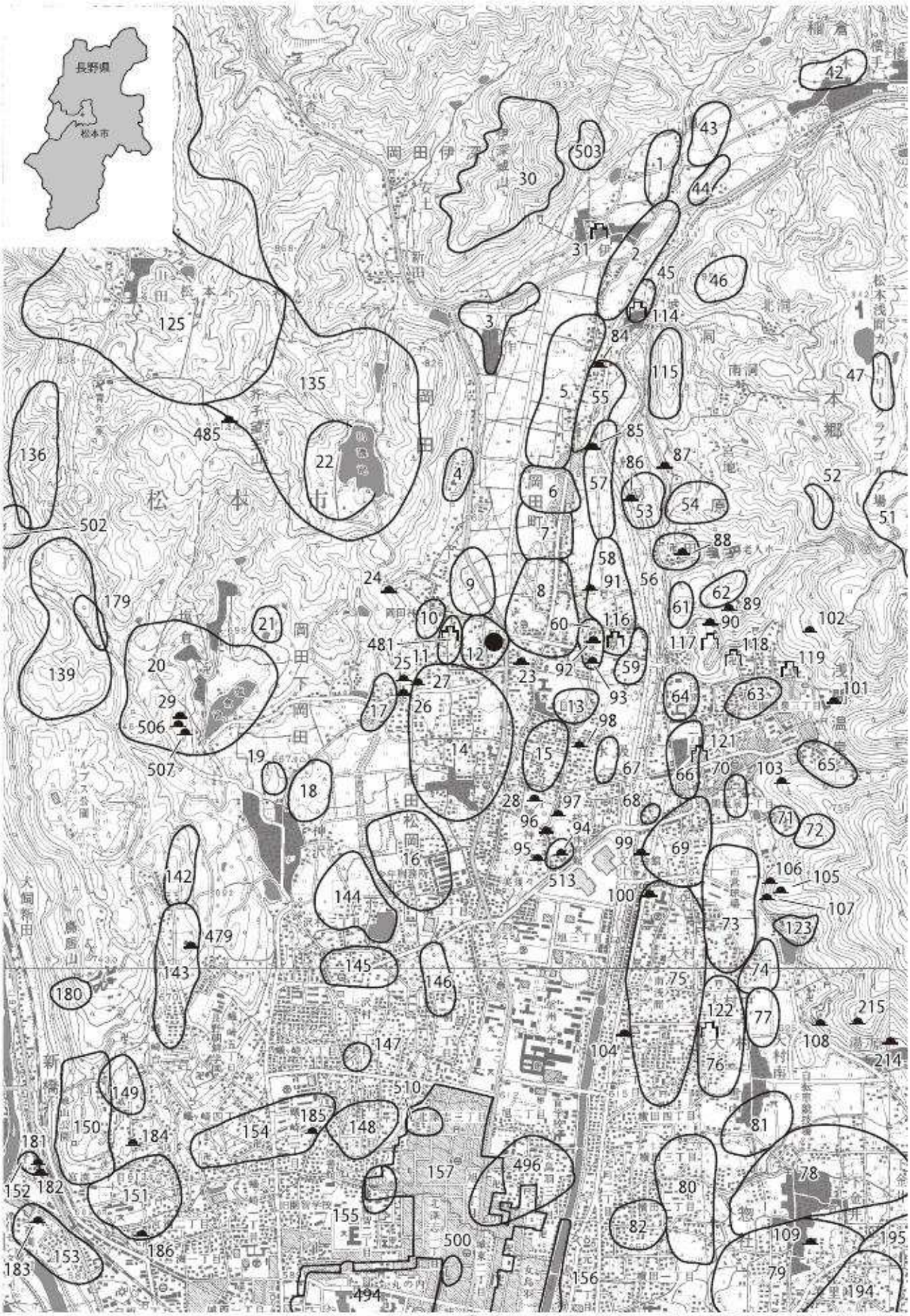
旧石器～縄文時代草創期　遺跡は知られておらず、遺物がわずかに確認されるのみである。火渡し遺跡でナイフ形石器、岡田伊深の怒田原で神子柴型石斧、稲倉桜田遺跡と岡田神社西北の東斜面から有舌尖頭器が出土している。

縄文時代　北側の山麓斜面から高位段丘上にかけて集落跡が認められる。早期は稲倉桜田遺跡・稲倉和田遺跡、前期は堂田遺跡で住居址、遺物が確認されている。中期になると扇状地一帯に集落跡が増加する。矢作遺跡・火渡し遺跡・岡田西裏遺跡・塩倉池遺跡では住居址が複数軒みられ、特に塩辛遺跡では多数の住居址と土器・石器が確認されている。後晩期になると遺跡は急激に減少し、後期は塩倉池遺跡で敷石住居址と土器・石器が確認され、晩期は稲倉桜田遺跡・岡田町遺跡など少数の遺跡で土器の出土をみるに留まっている。

弥生時代　縄文時代後期から継続して、この時代の遺跡は極めて乏しい。田溝池の南で銅鏃、岡田宮の前遺跡で磨製石鏃が出土したほか、岡田町遺跡などで中期の土器がわずかに出土している。

古墳時代　集落跡は前期を中心に主に中位段丘上でみられる。岡田町遺跡・二反田遺跡で前期、岡田西裏遺跡・岡田松岡遺跡で中期、塩辛遺跡で後期の住居址が複数軒確認されている。

古墳は城山丘陵東麓から筑摩山脈の西麓まで、扇状地一帯に 30 基程度が点在する。特徴としては、立地に関係なく密度の高い群集墳は形成せずに、単独での分布が大半を占めている。現在までに発掘調査が実施された古墳はごくわずかで、過去に盗掘・削平を受けたため遺存度が低い古墳が多いことも相まって、大半は詳細が不明である。近年の成果としては、平成 16 年に実施された塚山古墳群の調査がある。須恵器・土



第１図　調査地の位置と周辺遺跡（S=1/25,000）

第１表　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	堂田	22	田溝	65	大音寺	144	狐塚
2	塩辛	42	稲倉鎮守	66	本郷高田	146	元原
3	矢作	43	稲倉和田	68	芝田	147	沢村北
4	向山	44	稲倉桜田	69	柳田	145	旧射的場西
5	岡田町	45	竹ノ上	67	水汲西原	148	沢村
6	二反田	46	高山	70	新湯南裏	149	放光寺
7	下出口	47	栗和田	71	真観寺	151	城山腰
8	岡田西裏	51	雨堤	72	飯治洞	152	宮渕二つ塚
9	岡田宮の前	52	古屋清水	73	大村	153	宮渕本村
10	岡田神社裏	53	洞塚田	74	大村古屋敷	154	鰻ヶ崎
11	岡田堀ノ内	54	宮地	75	大輔原	155	田町
12	岡田田中	55	火渡し	76	大村立石	156	女鳥羽川
13	杵坂	56	穴田前	77	大村前田	157	松本城下町跡
14	岡田松岡	57	原畑	78	惣社	194	里山辺下原
15	松岡七日市場	58	宮の上	79	宮北	195	新井
16	トウコン原	59	原五反田	80	横田	496	岡の宮
17	天神ノ木	60	下屋敷	81	大村塚田	500	片端
18	笠原	61	北の窪	82	横田古屋敷	502	上ノ寺
19	土田	62	根利尾	125	島内山田	503	慶弘寺跡
20	塩倉池	63	鳥居前	142	神沢	510	堂町
21	御宝殿	64	本郷上高田	143	峰ノ平	513	水汲

No.	古墳名	No.	古墳名	No.	古墳名	No.	古墳名
23	岡田猫塚	89	本社峯	101	横谷入	182	宮渕二つ塚２号
24	清水入り	90	茶臼山	102	御殿山	183	宮渕１号
25	矢崎１号	91	西原	103	桜ヶ丘	184	開き松
26	矢崎２号	92	原下屋敷	104	国司塚	185	饅頭塚
27	矢崎３号	93	塚畑	105	妙義山１号	186	勢多賀神社裏
28	松岡	94	水汲１号	106	妙義山２号	214	御母家１号
29	塚山１号	95	水汲２号	107	妙義山３号	215	御母家２号
84	山城	96	水汲３号	108	桃仙園	479	峰ノ平１号
85	高根塚	97	水汲４号	109	惣社車塚	485	芥子望主山
86	洞塚田	98	水汲５号	179	老根田	506	塚山２号
87	土取場	99	大屋敷１号	180	鳥居山	507	塚山３号
88	穴田	100	大屋敷２号	181	宮渕二つ塚１号		

No.	城館名	No.	城館名	No.	城館名	No.	城館名
30	伊深城址	116	下屋敷館址	121	下浅間館址	481	岡田氏館址
31	小宮山城址	117	茶臼山砦址	122	大村館址	494	松本城跡
114	狐屋敷館址	118	神宮寺館址	139	御殿山城址		
115	早落城址	119	城之内館址	150	犬甘城址		

No.	古窯址名	No.	古窯址名	No.	古窯址名
123	大村新切古窯址	135	北部古窯址群	136	平瀬川東古窯址群

師器が出土したほか、３基全て古墳時代中期の円墳であることが確認された。中でも１号墳は松本平で有数の大型円墳であることが判明している。

奈良・平安時代　地区の広範囲で継続的に集落の展開がみられる。前述のとおり女鳥羽川右岸にはおよそ三段の河岸段丘が形成されており、遺跡も地形に沿って分布しているが、この時代は特にその傾向が強くみてとれる。

北側の山麓から高位段丘上では稲倉和田遺跡で住居址、堂田遺跡で炭焼窯が確認されている。中位段丘上では、南北に延びる段丘面に沿って岡田町遺跡・二反田遺跡・下出口遺跡・岡田西裏遺跡が連なり、国道143号線を挟んで西に岡田宮の前遺跡・岡田神社裏遺跡・岡田堀ノ内遺跡、南に岡田松岡遺跡がある。低位段丘上では、西側の中位段丘上の遺跡に沿うように火渡し遺跡・原畑遺跡・宮の上遺跡が展開している。これらの中位から低位段丘上には集落跡が豊富に確認されている。

特筆すべきは、中位段丘上に南北に連なる塩辛遺跡・岡田町遺跡・二反田遺跡・下出口遺跡・岡田西裏遺跡とその西側に位置する岡田宮の前遺跡の１群である。これらの遺跡では、円面硯や軒丸瓦など特徴的な遺物が出土しているほか、住居址に加えて掘立柱建物址が他遺跡より多く確認されている。特に岡田宮の前遺跡では庇付きの大型建物址が検出され、岡田町遺跡では住居址と掘立柱建物址がそれぞれでまとまった分布の傾向をみせている。東側に隣接する低位段丘上の遺跡では掘立柱建物址がみられないことも注目される。

さらに、岡田町遺跡・下出口遺跡・岡田西裏遺跡・岡田宮の前遺跡では、土師器焼成坑や粘土貯蔵穴が確認されており、集落内で土師器生産を行っていた可能性が考えられる。また、塩辛遺跡・下出口遺跡では溶壁や溶滓の付着した須恵器片、焼成不良の瓦などが出土していることから、西側の田溝池周辺に分布する北部古窯址群との関係性が示唆されている。

中世　この時期の遺構・遺物は極めて希薄で、岡田町遺跡などで火葬墓、下出口遺跡で墓址、二反田遺跡で掘立柱建物址、岡田宮の前遺跡で竪穴建物址が確認されている程度である。

文献資料では、『吾妻鏡』には文治２年（1186）に岡田郷の記載があり、『源平盛衰記』には治承４年（1180）に、岡田郷の荘官であったとされる岡田冠者親義・子の太郎重義の名が登場するが、考古資料との照らし合わせは難しく、今後の調査が期待される。

第３節　過去の調査成果

平成７年に実施された第１次調査では、平安時代の集落跡が確認されている。検出された遺構は竪穴住居址４軒、ピット１基、礎石１基である。竪穴住居址は近接して検出され、うち３軒は調査区外にかかっていたため全掘はできなかったが、出土した遺物から全て平安時代中期頃であると推定される。

調査面積が194㎡と少なかったためわずかな成果しか得られなかったが、岡田地区周辺は平安時代に広範囲で集落を密に展開している。第１次調査の成果も周辺遺跡の様相とある程度共通していることから、周囲と一連の繋がりを持った集落の一端であったと考えられる。

第Ⅲ章　調査成果

第１節　調査の概要

１　調査区の設定

今回の開発予定地は約 10,000㎡に及ぶものであったが、本調査に先立ち各所に試掘トレンチを設定して、遺跡が広がる範囲を把握し、調査対象範囲を設定した。開発予定地の南端はこの期間中に試掘調査が実施できなかったため、本調査の際に試掘（３・４トレンチ）を実施した結果、遺構・遺物は検出されず、調査不要とした。調査区は水田の区画を基準にＡ～Ｅ区と１～６トレンチに分けた。

２　調査の方法・手順

調査区はパワーショベルを用いて遺構検出が可能な深度まで表土を除去し、人力で遺構検出作業を進めた後、各遺構の掘り下げを行った。遺構番号は遺構の種別毎とし、今回の調査で１号から通し番号を付けた。遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系）を用いた。調査地周辺にある３級基準点を基に調査地内に基準点を複数設置し、これらを基に調査区内に 3m のグリッドを設定した。測量基準点は X ＝ 29,754.000、Y ＝ -47,082.000 を NS0、EW0 とした。測量は簡易遣り方測量により作成した。平面図・各遺構図・断面図は 1/20 で作成した。写真は発掘作業の各段階と遺構等の遺物出土状況及び完掘状況をフィルムカメラとデジタルカメラで撮影した。また、調査区全景はラジオコントロールヘリコプター（ラジコンヘリ）による空中写真撮影を実施した。

３　調査成果の概要

調査面積：2,088㎡

発見遺構

土坑：132 基

溝址：１条（時期不明）

出土遺物

土器・陶磁器：縄文土器、土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、土師質土器、炻器（須恵質・常滑）、無釉陶器、施釉陶器（古瀬戸）、青磁、白磁

土製品：羽口

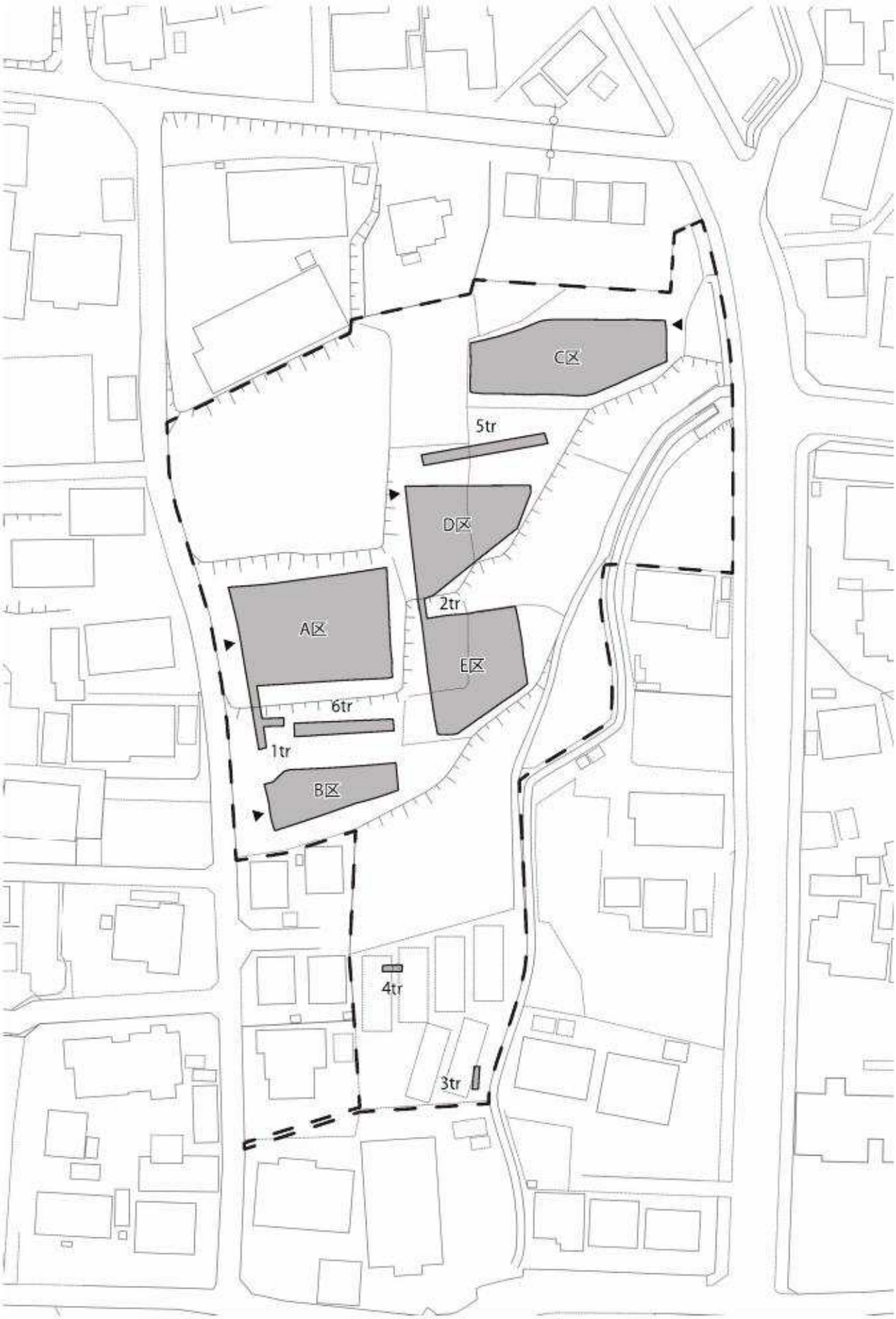
石器・石製品：石鏃、掻器、石匙、硯

金属製品：釘、銭貨

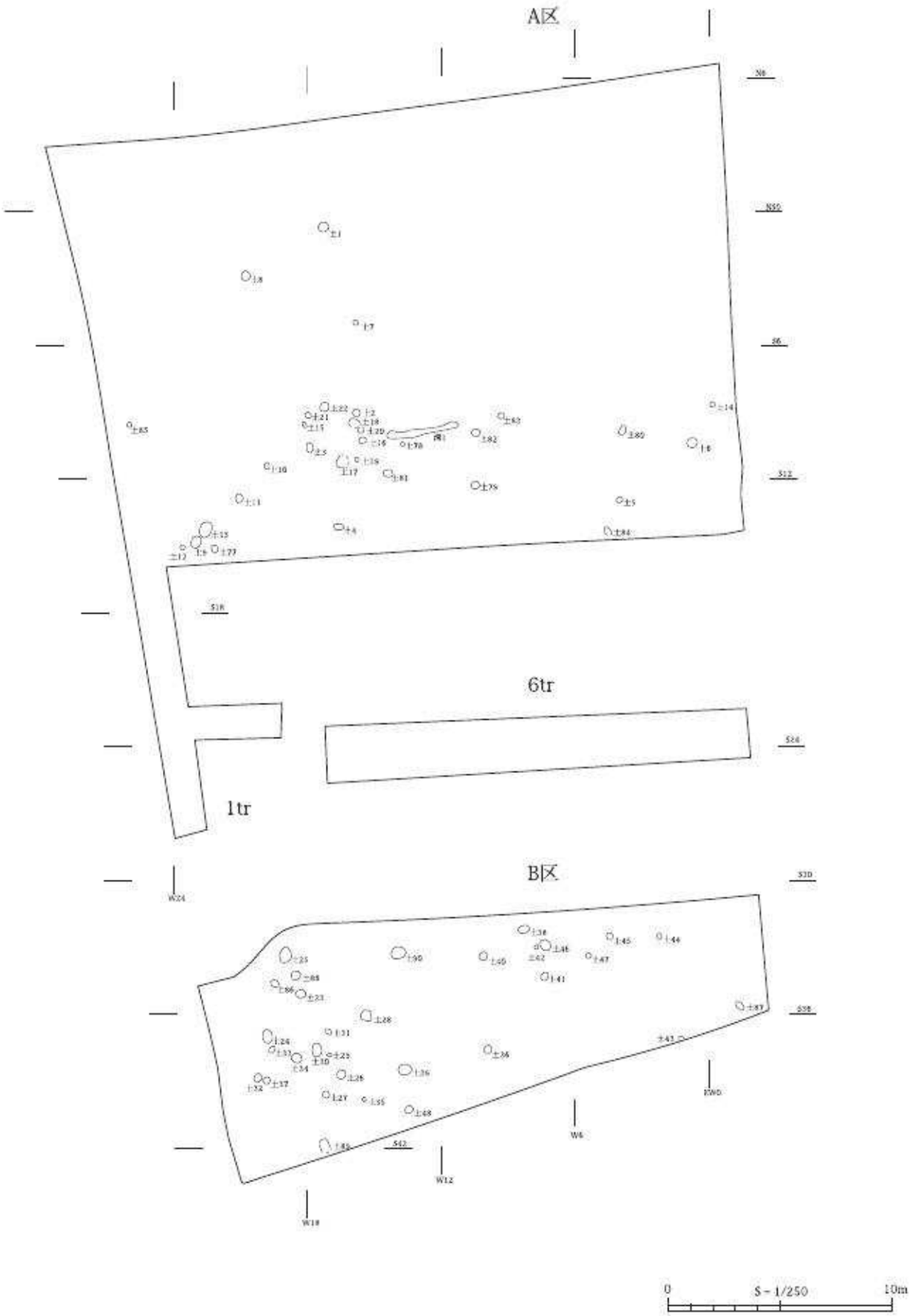
４　標準土層（第６図）

壇上の地形である調査地は、調査開始前まで水田であった。調査地は広大であり、調査区により土層の様相が異なることから、代表的な地点４箇所で土層柱状図を作成、観察をすることとした。柱状図を作成した箇所は第２図に▲で記した。

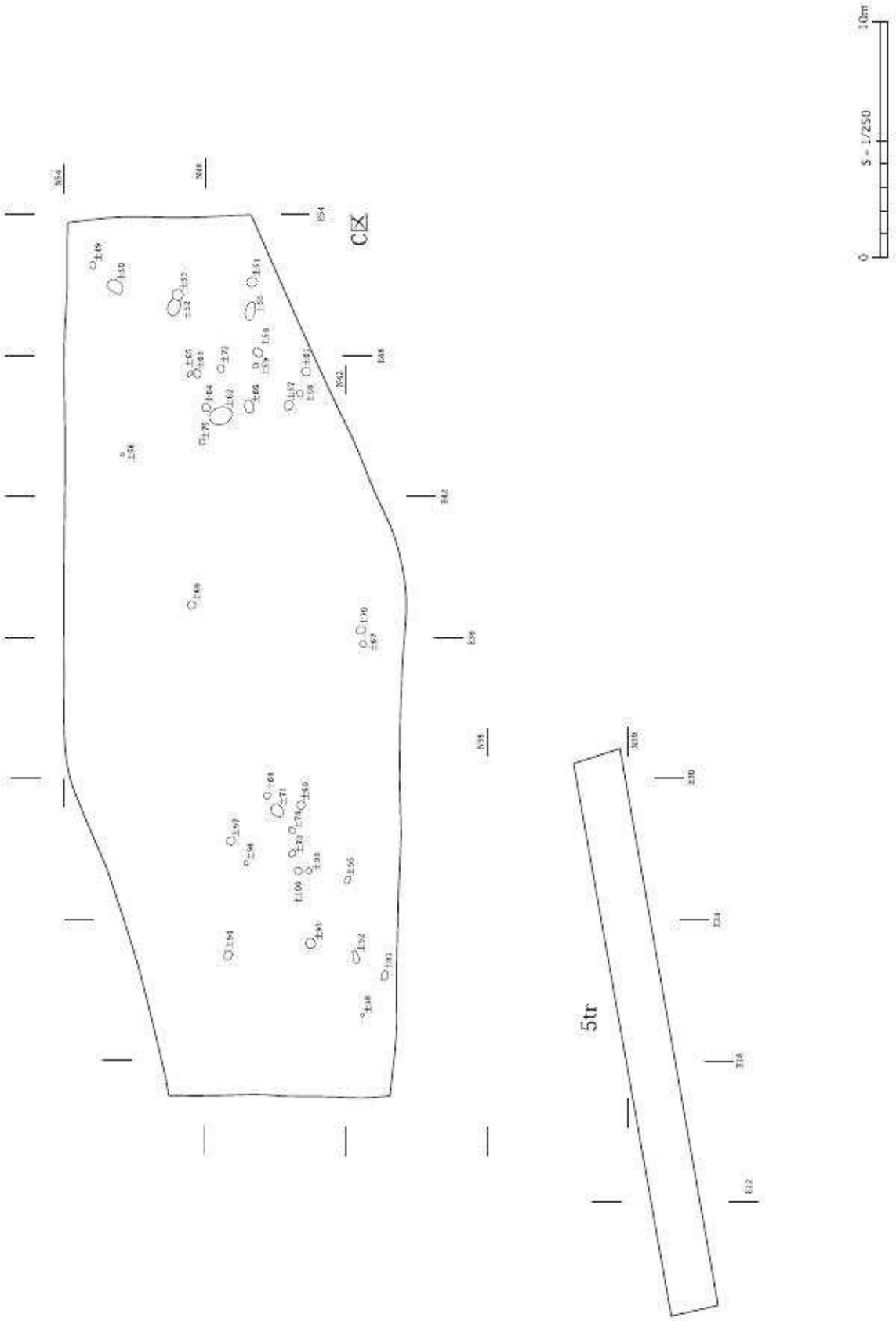
土層は大きく５層に分けられる。Ⅰ層は耕作土、Ⅱ層は床土とされる。Ⅲ層はにぶい黄褐色～黒褐色のシルト質土であり、遺物包含層である。Ⅳ層は粘質地山層、Ⅴ層は砂礫地山層とされる。検出面はⅢ層の上層に設定した。



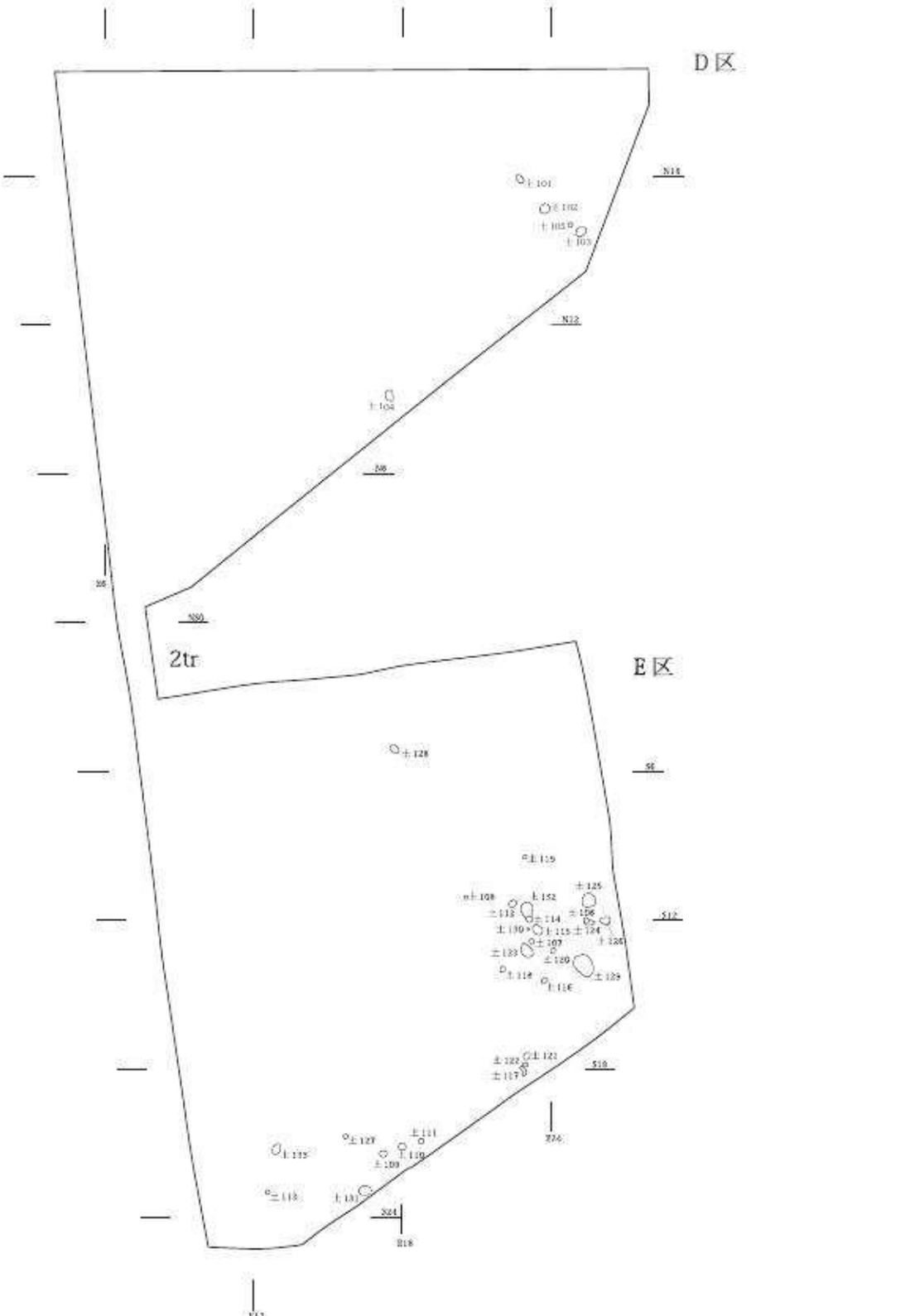
第２図　事業対象地と調査区の範囲（S=1/1,000）



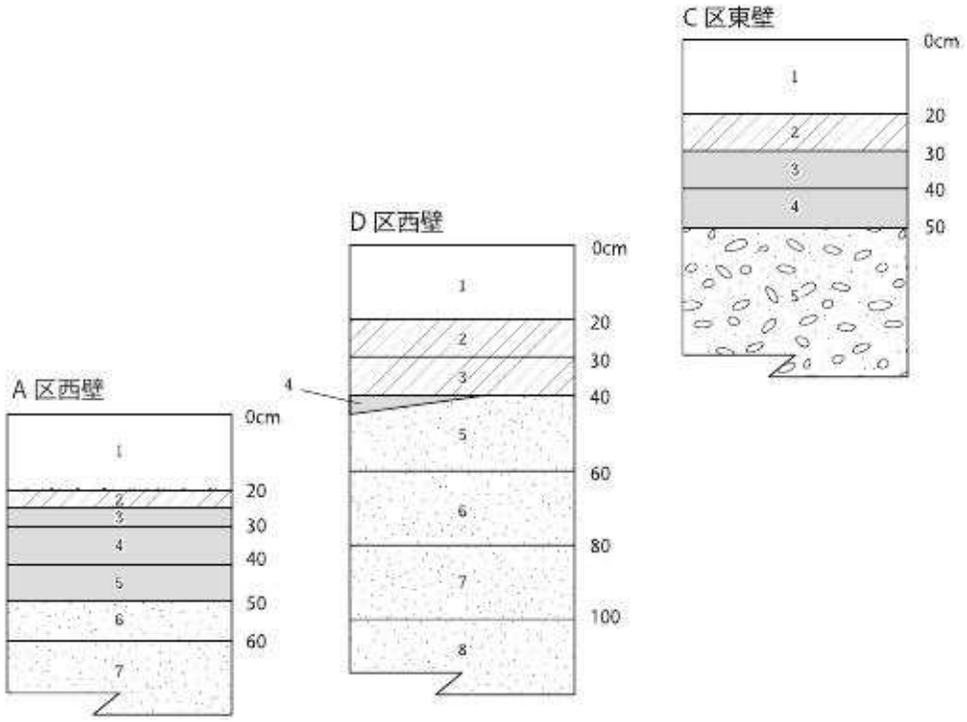
第3図　A・B区、1・6tr全体図（S=1/250）

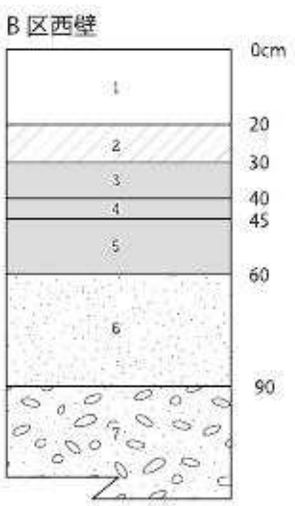


第４図　Ｃ区、５tr 全体図（S=1/250）



第５図　D・E区、2tr 全体図（S=1/250）





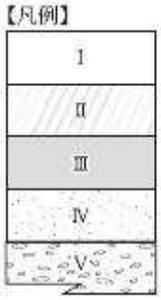
【B 区西壁】
1：耕作土
2：褐シルト質（砂粒 多、褐灰土塊 少）
3：褐シルト質（褐灰土塊 多、鉄分 少）
4：灰黄褐粘質（~0.3cm 礫 多）
5：黒褐シルト質（~10cm 礫 多）
6：褐灰粘質（褐土粒・黒褐土粒 多、~4cm 礫 中）
7：砂礫（褐灰土粒 微）

【A 区西壁】
1：耕作土
2：黄灰シルト質（砂粒・鉄分 多）
3：オリーブ黒シルト質（~0.5cm 礫 多、~2cm 礫 微）
4：黒褐シルト質（砂粒 多、鉄分 中、~5cm 礫 微）
5：黒褐シルト質（砂粒 多、鉄分 少、~5cm 礫 微）
6：褐灰粘質（~2cm 礫 多）
7：灰シルト質（~10cm 礫 多）

【D 区西壁】
1：耕作土
2：にぶい黄褐シルト質（褐土粒 中、明黄褐土粒・~0.3cm 礫 少）
3：にぶい黄褐粘質（褐土粒 少、橙土粒・黒土粒 微）
4：灰黄褐シルト質（褐土粒 中、明黄褐土粒 少、暗褐土粒 微）
5：黒褐シルト質（暗褐土粒・明黄褐土粒 中、黒土粒 少）
6：褐灰粘質（黄褐土粒 中、褐土粒 少、暗褐土粒 微）
7：褐灰粘質（明黄褐土粒 多、黄橙土粒 中、暗褐土粒 少、黒土粒・~0.3cm 礫 微）
8：灰白粘質（黄橙土粒 多、黒褐土粒 中、黄褐土粒・褐灰土粒 少）

【C 区東壁】
1：耕作土
2：褐シルト質（明黄褐土粒 大、褐灰土粒・~0.5cm 礫 中）
3：にぶい黄褐シルト質（褐土粒 多、褐灰土粒 中、黒褐土粒・~0.3cm 礫 少）
4：黒褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒・~5cm 礫 少）
5：黒褐砂質（~10cm 礫 大、黄褐土粒 中、~0.3cm 礫 微）

【凡例】



第６図　調査地の標準土層模式図

第２節　遺構

１　土坑（第２表、第７～12図、写真図版４・５）

今回の調査では、規模の大小にかかわらず単独の穴を土坑とした。土坑の平面形・規模・他遺構との新旧関係等については、一覧表を参照されたい。

土坑は132基が検出され、A区で31基、B区で31基、C区で37基、D区で５基、E区で28基と各地区に分布している。平面形態は円形が59基、楕円形が73基であり、方形は確認されていない。柱痕は土17･41･66･107の４基で観察できたが、調査区内では掘立柱建物などを構成せず、性格は不明である。また、遺物は土２・６・９・13・15・17・31・34・37・54・55・63・65・66・70・72・131の17基で出土した。土55は縄文土器の深鉢が出土しており、縄文時代後期と推定される。その他の土坑については、いずれも遺物の破片が小さく、時期は不明である。

２　溝址（第12図、写真図版５）

溝址は１条が検出された。溝１はA区南側に位置し、規模は長さ3.23m、幅0.32mである。東西方向に延び、断面形は皿状である。深さは10㎝程度と浅く、黒褐色シルト質土で埋まる。遺物は土師器片が出土するが、非常に少なく、時期は不明である。

第２表　土坑一覧表

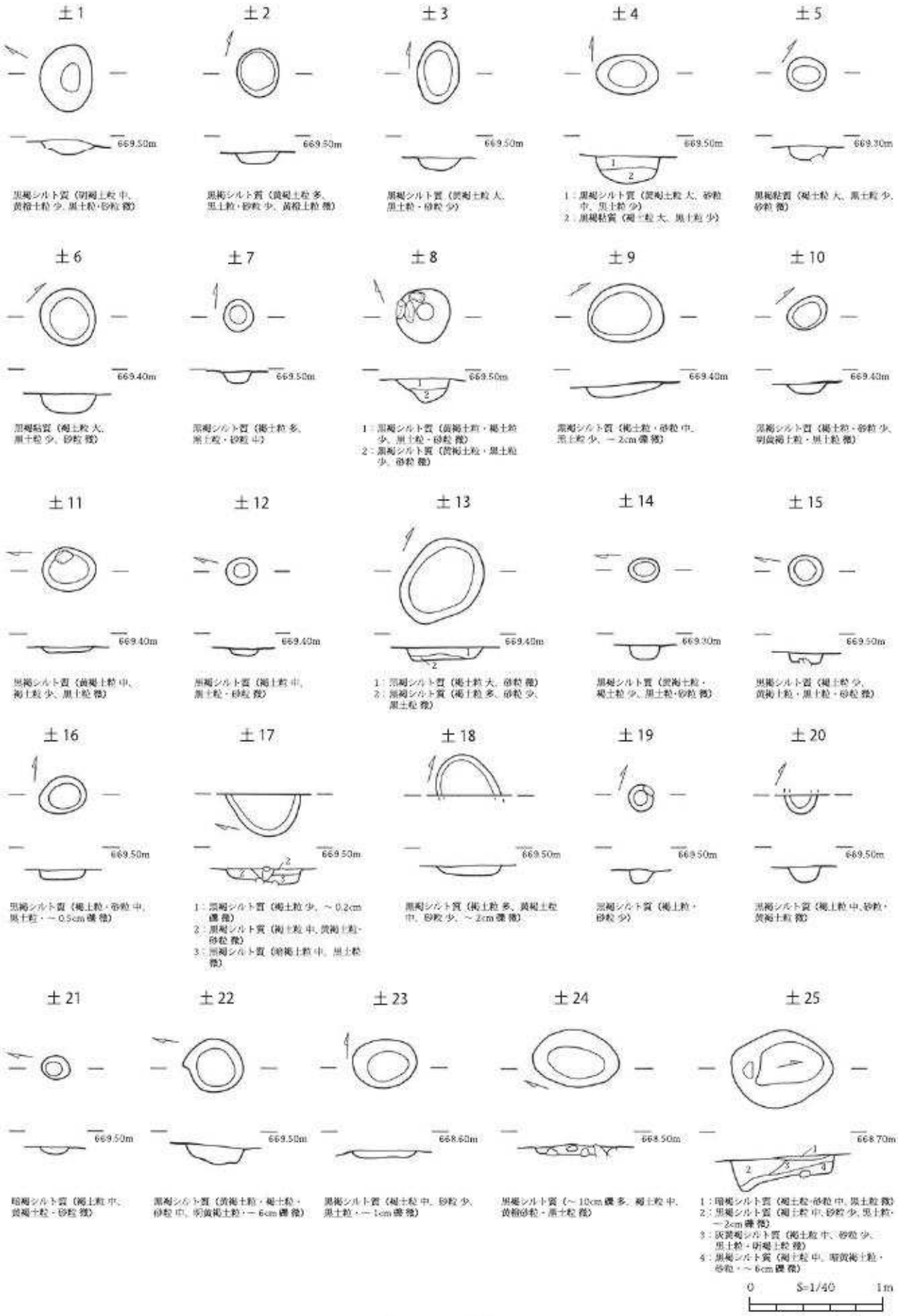
土坑No.	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	A	楕円形	52	40	11				
2	A	円形	35	33	10			土師器片	
3	A	楕円形	46	31	8				
4	A	楕円形	45	30	21				
5	A	楕円形	30	24	9				
6	A	円形	42	41	15			土師器片	
7	A	円形	24	23	8				
8	A	円形	42	40	18				
9	A	楕円形	56	42	10			土師器甕、須恵器片	
10	A	楕円形	30	22	6				
11	A	楕円形	40	33	6				
12	A	円形	21	20	6				
13	A	楕円形	68	56	11			白磁片	
14	A	楕円形	23	17	10				
15	A	円形	25	22	7			土師器甕	
16	A	楕円形	36	26	9				
17	A	円形？	56	(31)	9			土師器甕	柱痕
18	A	楕円形？	47	(30)	7				
19	A	円形	20	19	10				
20	A	円形？	24	(13)	9				
21	A	円形	20	18	7				
22	A	円形	44	40	15				
23	B	楕円形	47	37	4				
24	B	楕円形	62	42	6				
25	B	楕円形	78	58	26				
26	B	円形	42	40	7				
27	B	円形	30	29	6				
28	B	円形	52	50	10				
29	B	円形	15	15	3				
30	B	楕円形	59	39	12				

土坑No	地区	平面形	規模<cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
31	B	楕円形	35	24	5			灰釉陶器片	
32	B	楕円形	38	32	6				
33	B	楕円形	30	23	7				
34	B	楕円形	50	37	12			土師器片	
35	B	円形	24	20	4				
36	B	円形	38	35	7				
37	B	円形	35	31	10			須恵器杯 B	
38	B	楕円形	55	36	8				
39	B	楕円形	58	47	5				
40	B	円形	40	35	10				
41	B	円形	35	32	10				柱痕
42	B	円形	18	17	3				
43	B	円形	(20)	(11)	6				
44	B	円形	26	25	13				
45	B	円形	31	30	8				
46	B	楕円形	53	42	4				
47	B	円形	27	25	5				
48	B	円形	37	34	8				
49	C	円形	38	37	15				
50	C	楕円形	69	48	10				
51	C	円形	43	40	11				
52	C	楕円形	71	52	7	土 53			
53	C	円形	45	44	4		土 52		
54	C	楕円形	45	36	13			縄文深鉢	
55	C	楕円形	(70)	39	19			縄文深鉢	
56	C	円形	15	14	7				
57	C	円形	43	38	12				
58	C	楕円形	31	24	5				
59	C	楕円形	29	20	5				
60	C	楕円形	57	39	10				
61	C	円形？	(28)	32	4				
62	C	楕円形	101	69	9				
63	C	楕円形	35	27	16			縄文土器片	
64	C	円形	32	31	4				
65	C	楕円形	23	17	16			縄文土器片	
66	C	円形	43	36	10			縄文土器片	柱痕
67	C	円形	29	26	16				
68	C	円形	30	27	15				
69	C	円形	39	34	8				
70	C	楕円形	40	30	16			縄文土器片	
71	C	楕円形	55	43	9				
72	C	楕円形	35	28	12			縄文土器片	
73	C	楕円形	31	23	8				
74	C	円形	26	24	10				
75	C	円形	23	21	7				
76	欠番								
77	A	楕円形	34	27	10				
78	A	楕円形	22	16	5				
79	A	円形	38	33	5				
80	A	楕円形	43	26	7				
81	A	楕円形	42	35	12				
82	A	楕円形	41	33	12				
83	A	円形	28	27	5				
84	A	楕円形	(28)	24	7				
85	A	円形	24	20	12				

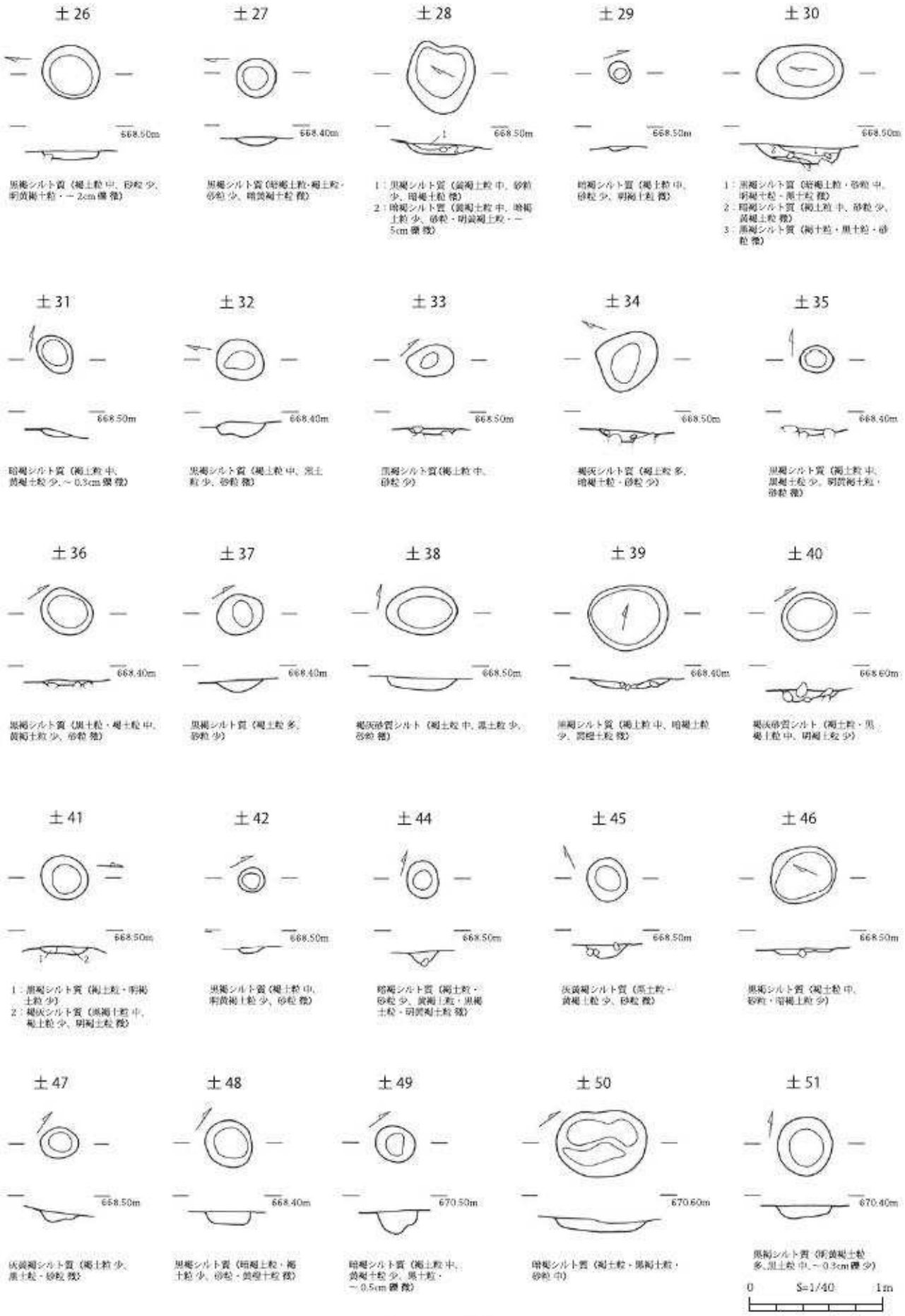
土坑No.	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
86	B	楕円形	41	32	10				
87	B	楕円形	46	39	9				
88	B	円形	44	42	19				
89	B	楕円形	(54)	45	9				
90	B	円形	54	52	14				
91	C	楕円形	37	25	10				
92	C	楕円形	47	20	7				
93	C	円形	47	45	24				
94	C	円形	40	38	6				
95	C	楕円形	31	22	5				
96	C	円形	20	17	12				
97	C	円形	36	35	9				
98	C	円形	10	10	7				
99	C	円形	25	25	10				
100	C	楕円形	35	30	6				
101	D	楕円形	30	22	5				
102	D	楕円形	41	36	7				
103	D	楕円形	42	37	13				
104	D	楕円形	46	29	10				
105	D	円形	18	17	3				
106	E	円形	23	20	4	土124			
107	E	円形	23	23	12				柱痕
108	E	楕円形	18	13	5				
109	E	楕円形	32	25	5				
110	E	円形	30	27	6				
111	E	円形	21	20	5				
112	E	楕円形	36	26	9				
113	E	楕円形	21	15	4				
114	E	円形	24	22	7	土132			
115	E	楕円形	41	33	10				
116	E	楕円形	28	19	9				
117	E	楕円形	35	18	8				
118	E	楕円形	21	16	5				
119	E	楕円形	19	15	4				
120	E	楕円形	19	13	6				
121	E	楕円形	26	20	5				
122	E	楕円形	18	13	3				
123	E	楕円形	57	44	9				
124	E	楕円形	41	23	6		土106		
125	E	円形	55	55	19				
126	E	楕円形	42	30	11				
127	E	円形	14	14	13				
128	E	楕円形	37	26	3				
129	E	楕円形	86	75	16				
130	E	円形	8	8	16				
131	E	楕円形？	45	(30)	13			灰釉陶器片	
132	E	楕円形	65	50	13		土114		
133	E	楕円形	41	30	12				

測量数値

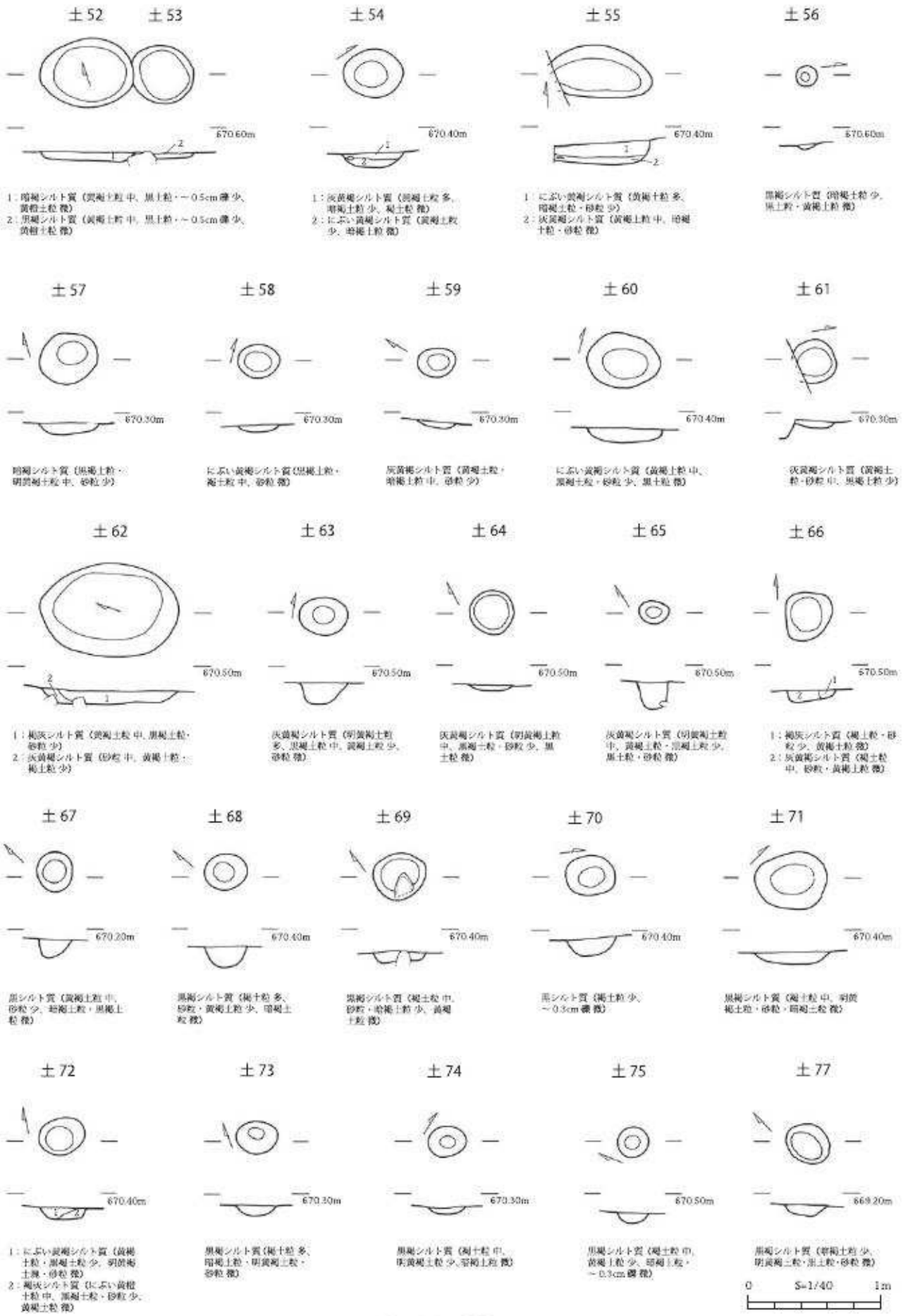
（）：推定値


土1
669.50m
黒褐シルト質（明褐土粒 中、黄褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
土2
669.50m
黒褐シルト質（黄褐土粒 多、黒土粒・砂粒 少、黄褐土粒 微）
土3
669.50m
黒褐シルト質（黄褐土粒 大、黒土粒・砂粒 少）
土4
669.50m
1：黒褐シルト質（黄褐土粒 大、砂粒 中、黒土粒 少）
2：黒褐粘質（褐土粒 大、黒土粒 少）
土5
669.30m
黒褐粘質（褐土粒 大、黒土粒 少、砂粒 微）
土6
669.40m
黒褐粘質（褐土粒 大、黒土粒 少、砂粒 微）
土7
669.50m
黒褐シルト質（褐土粒 多、黒土粒・砂粒 中）
土8
669.50m
1：黒褐シルト質（黄褐土粒・褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
2：黒褐シルト質（黄褐土粒・黒土粒 少、砂粒 微）
土9
669.40m
黒褐シルト質（褐土粒・砂粒 中、黒土粒 少、～2cm 礫 微）
土10
669.40m
黒褐シルト質（褐土粒・砂粒 少、明黄褐土粒・黒土粒 微）
土11
669.40m
黒褐シルト質（黄褐土粒 中、褐土粒 少、黒土粒 微）
土12
669.40m
黒褐シルト質（褐土粒 中、黒土粒・砂粒 微）
土13
669.40m
1：黒褐シルト質（褐土粒 大、砂粒 微）
2：黒褐シルト質（褐土粒 多、砂粒 少、黒土粒 微）
土14
669.30m
黒褐シルト質（黄褐土粒・褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
土15
669.50m
黒褐シルト質（褐土粒 少、黄褐土粒・黒土粒・砂粒 微）
土16
669.50m
黒褐シルト質（褐土粒・砂粒 中、黒土粒・～0.5cm 礫 微）
土17
669.50m
1：黒褐シルト質（褐土粒 少、～0.2cm 礫 微）
2：黒褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒・砂粒 微）
3：黒褐シルト質（暗褐土粒 中、黒土粒 微）
土18
669.50m
黒褐シルト質（褐土粒 多、黄褐土粒 中、砂粒 少、～2cm 礫 微）
土19
669.50m
黒褐シルト質（褐土粒・砂粒 少）
土20
669.50m
黒褐シルト質（褐土粒 中、砂粒・黄褐土粒 微）
土21
669.50m
暗褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒・砂粒 微）
土22
669.50m
黒褐シルト質（黄褐土粒・褐土粒・砂粒 中、明黄褐土粒・～6cm 礫 微）
土23
668.60m
黒褐シルト質（褐土粒 中、砂粒 少、黒土粒・～1cm 礫 微）
土24
668.50m
黒褐シルト質（～10cm 礫 多、褐土粒 中、黄褐砂粒・黒土粒 微）
土25
668.70m
1：暗褐シルト質（褐土粒・砂粒 中、黒土粒 微）
2：黒褐シルト質（褐土粒 中、砂粒 少、黒土粒・～2cm 礫 微）
3：灰黄褐シルト質（褐土粒 中、砂粒 少、黒土粒・明褐土粒 微）
4：黒褐シルト質（褐土粒 中、暗黄褐土粒・砂粒・～6cm 礫 微）
0 S=1/40 1m

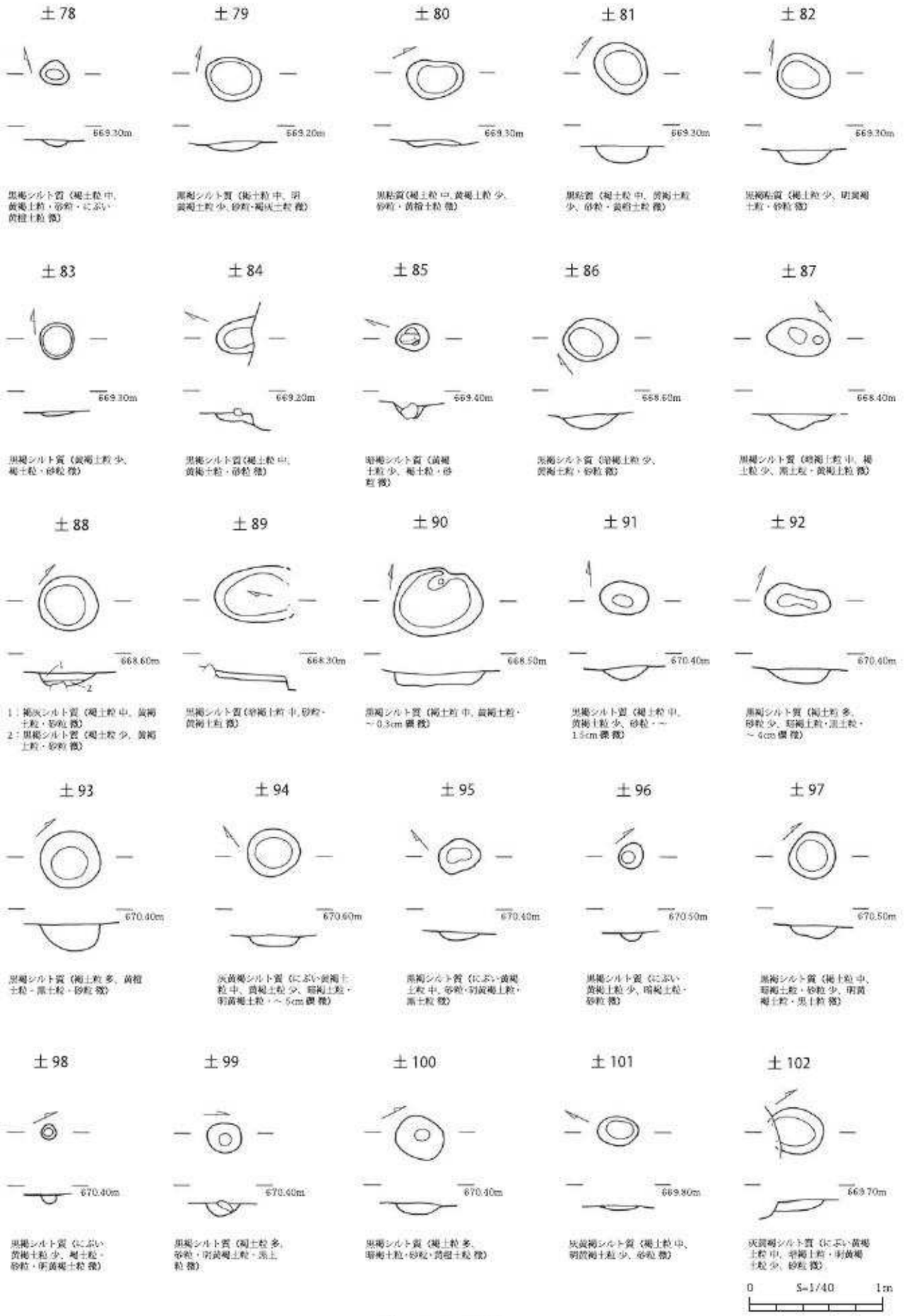
第7図　土坑(1)


土26
668.50m
黒褐シルト質（褐土粒中、砂粒少、明黄褐十粒・～2cm礫微）
土27
668.40m
黒褐シルト質（暗褐土粒・褐土粒・砂粒少、明黄褐十粒微）
土28
668.50m
1：黒褐シルト質（黄褐土粒中、砂粒少、暗褐十粒微）
2：暗褐シルト質（黄褐土粒中、暗褐土粒少、砂粒・明黄褐土粒・～5cm礫微）
土29
668.50m
暗褐シルト質（褐土粒中、砂粒少、明褐十粒微）
土30
668.50m
1：黒褐シルト質（暗褐土粒・砂粒中、明褐十粒・黒十粒微）
2：暗褐シルト質（褐土粒中、砂粒少、黄褐土粒微）
3：黒褐シルト質（褐十粒・黒十粒・砂粒微）
土31
668.50m
暗褐シルト質（褐土粒中、黄褐十粒少、～0.3cm礫微）
土32
668.40m
黒褐シルト質（褐土粒中、黒土粒少、砂粒微）
土33
668.50m
黒褐シルト質（褐土粒中、砂粒少）
土34
668.50m
褐灰シルト質（褐土粒多、暗褐十粒・砂粒少）
土35
668.40m
黒褐シルト質（褐土粒中、黒褐十粒少、明黄褐十粒・砂粒微）
土36
668.40m
黒褐シルト質（黒十粒・褐土粒中、黄褐十粒少、砂粒微）
土37
668.40m
黒褐シルト質（褐土粒多、砂粒少）
土38
668.50m
褐灰砂質シルト（褐土粒中、黒土粒少、砂粒微）
土39
668.40m
黒褐シルト質（褐土粒中、暗褐土粒少、黄褐十粒微）
土40
668.60m
褐灰砂質シルト（褐十粒・黒褐土粒中、明褐土粒少）
土41
668.50m
1：黒褐シルト質（褐土粒・明褐土粒少）
2：褐灰シルト質（黒褐十粒中、褐土粒少、明褐土粒微）
土42
668.50m
黒褐シルト質（褐土粒中、明黄褐土粒少、砂粒微）
土44
668.50m
暗褐シルト質（褐土粒・砂粒少、黄褐土粒・黒褐土粒・明黄褐土粒微）
土45
668.50m
灰黄褐シルト質（黒土粒・黄褐土粒少、砂粒微）
土46
668.50m
黒褐シルト質（褐土粒中、砂粒・暗褐土粒少）
土47
668.50m
灰黄褐シルト質（褐土粒少、黒十粒・砂粒微）
土48
668.40m
黒褐シルト質（暗褐土粒・褐十粒少、砂粒・黄褐十粒微）
土49
670.50m
暗褐シルト質（褐土粒中、黄褐十粒少、黒十粒・～0.5cm礫微）
土50
670.60m
暗褐シルト質（褐土粒・黒褐十粒・砂粒中）
土51
670.40m
黒褐シルト質（明黄褐土粒多、黒土粒中、～0.3cm礫少）
0 S=1/40 1m

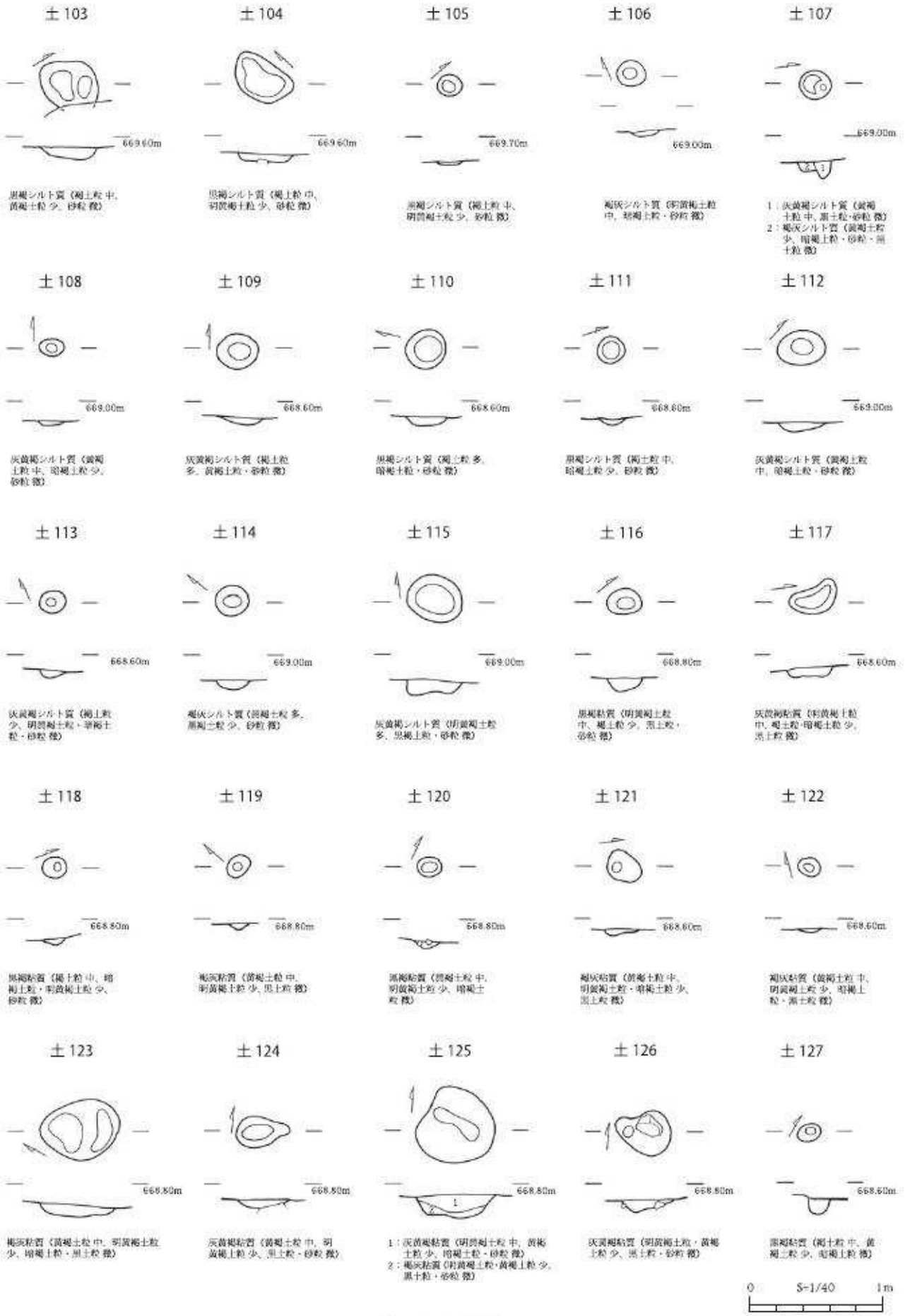
第8図　土坑(2)


土52
土53
670.60m
1：暗褐シルト質（黄褐土粒 中、黒土粒・～0.5cm礫 少、黄橙土粒 微）
2：黒褐シルト質（黄褐土粒 中、黒土粒・～0.5cm礫 少、黄橙土粒 微）
土54
670.40m
1：灰黄褐シルト質（黄褐土粒 多、暗褐土粒 少、褐土粒 微）
2：にぶい黄褐シルト質（黄褐土粒 少、暗褐土粒 微）
土55
670.40m
1：にぶい黄褐シルト質（黄褐土粒 多、暗褐土粒・砂粒 少）
2：灰黄褐シルト質（黄褐土粒 中、暗褐土粒・砂粒 微）
土56
670.60m
黒褐シルト質（暗褐土粒 少、黒土粒・黄褐土粒 微）
土57
670.30m
暗褐シルト質（黒褐土粒・明黄褐土粒 中、砂粒 少）
土58
670.30m
にぶい黄褐シルト質（黒褐土粒・褐土粒 中、砂粒 微）
土59
670.30m
灰黄褐シルト質（黄褐土粒・暗褐土粒 中、砂粒 少）
土60
670.40m
にぶい黄褐シルト質（黄褐土粒 中、黒褐土粒・砂粒 少、黒土粒 微）
土61
670.30m
灰黄褐シルト質（黄褐土粒・砂粒 中、黒褐土粒 少）
土62
670.50m
1：褐灰シルト質（黄褐土粒 中、黒褐土粒・砂粒 少）
2：灰黄褐シルト質（砂粒 中、黄褐土粒・褐土粒 少）
土63
670.50m
灰黄褐シルト質（明黄褐土粒 多、黒褐土粒 中、黄褐土粒 少、砂粒 微）
土64
670.50m
灰黄褐シルト質（明黄褐土粒 中、黒褐土粒・砂粒 少、黒土粒 微）
土65
670.50m
灰黄褐シルト質（明黄褐土粒 中、黄褐土粒・黒褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
土66
670.50m
1：褐灰シルト質（褐土粒・砂粒 少、黄褐土粒 微）
2：灰黄褐シルト質（褐土粒 中、砂粒・黄褐土粒 微）
土67
670.20m
黒シルト質（黄褐土粒 中、砂粒 少、暗褐土粒・黒褐土粒 微）
土68
670.40m
黒褐シルト質（褐土粒 多、砂粒・黄褐土粒 少、暗褐土粒 微）
土69
670.40m
黒褐シルト質（褐土粒 中、砂粒・暗褐土粒 少、黄褐土粒 微）
土70
670.40m
黒シルト質（褐土粒 少、～0.3cm礫 微）
土71
670.40m
黒褐シルト質（褐土粒 中、明黄褐土粒・砂粒・暗褐土粒 微）
土72
670.40m
1：にぶい黄褐シルト質（黄褐土粒・黒褐土粒 少、明黄褐土粒・砂粒 微）
2：褐灰シルト質（にぶい黄橙土粒 中、黒褐土粒・砂粒 少、黄褐土粒 微）
土73
670.30m
黒褐シルト質（褐土粒 多、暗褐土粒・明黄褐土粒・砂粒 微）
土74
670.30m
黒褐シルト質（褐土粒 中、明黄褐土粒 少、暗褐土粒 微）
土75
670.50m
黒褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒 少、暗褐土粒・～0.3cm礫 微）
土77
669.20m
黒褐シルト質（暗褐土粒 少、明黄褐土粒・黒土粒・砂粒 微）
0
S=1/40
1m

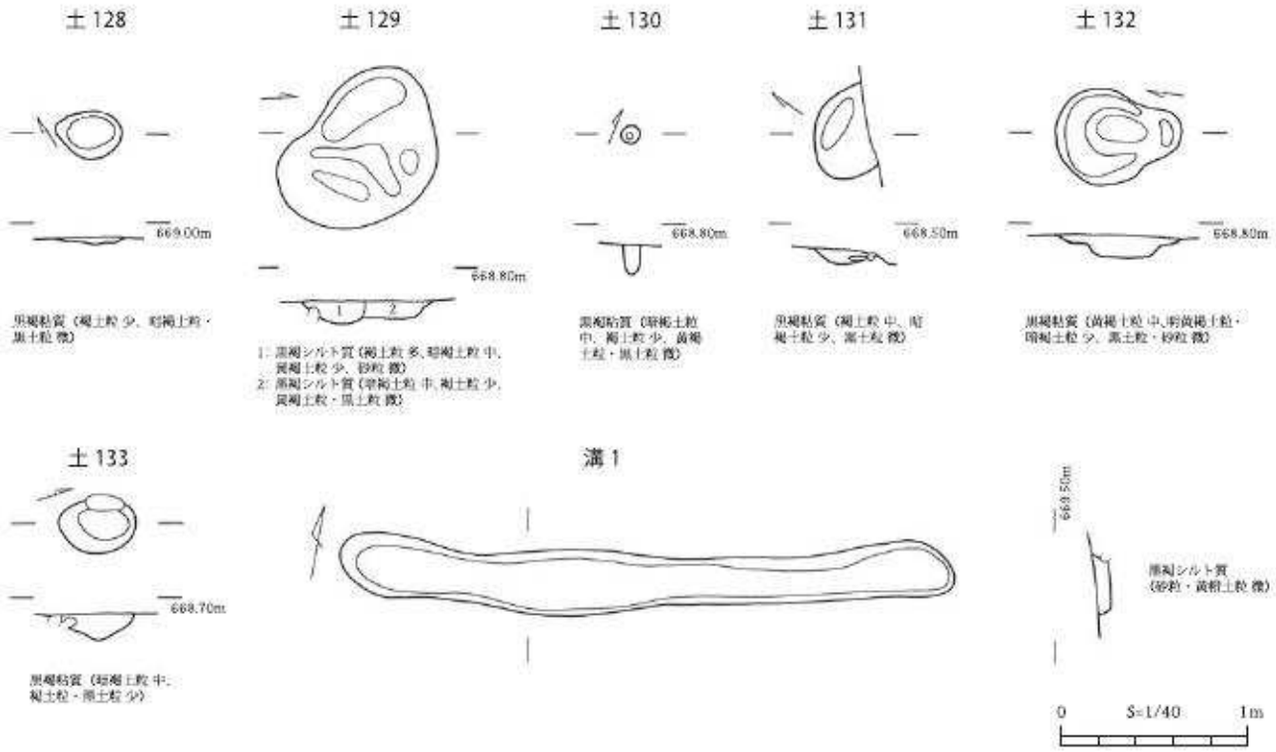
第9図　土坑(3)


土78
669.30m
土79
669.20m
土80
669.30m
土81
669.30m
土82
669.30m
土83
669.30m
土84
669.20m
土85
669.40m
土86
668.60m
土87
668.40m
土88
668.60m
1：褐灰シルト質（褐土粒中、黄褐土粒・砂粒微）
2：黒褐シルト質（褐土粒少、黄褐土粒・砂粒微）
土89
668.30m
土90
668.50m
土91
670.40m
土92
670.40m
土93
670.40m
土94
670.60m
土95
670.40m
土96
670.50m
土97
670.50m
土98
670.40m
土99
670.40m
土100
670.40m
土101
669.80m
土102
669.70m
0
S=1/40
1m

第10図　土坑(4)


土103
669.60m
黒褐シルト質（褐土粒 中、黄褐土粒 少、砂粒 微）
土104
669.60m
黒褐シルト質（褐土粒 中、明黄褐土粒 少、砂粒 微）
土105
669.70m
黒褐シルト質（褐土粒 中、明黄褐土粒 少、砂粒 微）
土106
669.00m
褐灰シルト質（明黄褐土粒 中、黒褐土粒・砂粒 微）
土107
669.00m
1：灰黄褐シルト質（黄褐土粒 中、黒土粒・砂粒 微）
2：褐灰シルト質（黄褐土粒 少、暗褐土粒・砂粒・黒土粒 微）
土108
669.00m
灰黄褐シルト質（黄褐土粒 中、暗褐土粒 少、砂粒 微）
土109
668.60m
灰黄褐シルト質（褐土粒 多、黄褐土粒・砂粒 微）
土110
668.60m
黒褐シルト質（褐土粒 多、暗褐土粒・砂粒 微）
土111
668.60m
黒褐シルト質（褐土粒 中、暗褐土粒 少、砂粒 微）
土112
669.00m
灰黄褐シルト質（黄褐土粒 中、暗褐土粒・砂粒 微）
土113
668.60m
灰黄褐シルト質（褐土粒 少、明黄褐土粒・暗褐土粒・砂粒 微）
土114
669.00m
褐灰シルト質（黄褐土粒 多、黒褐土粒 少、砂粒 微）
土115
669.00m
灰黄褐シルト質（明黄褐土粒 多、黒褐土粒・砂粒 微）
土116
668.80m
黒褐粘質（明黄褐土粒 中、褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
土117
668.60m
灰黄褐粘質（明黄褐土粒 中、褐土粒・暗褐土粒 少、黒土粒 微）
土118
668.80m
黒褐粘質（褐土粒 中、暗褐土粒・明黄褐土粒 少、砂粒 微）
土119
668.80m
褐灰粘質（黄褐土粒 中、明黄褐土粒 少、黒土粒 微）
土120
668.80m
黒褐粘質（黄褐土粒 中、明黄褐土粒 少、暗褐土粒 微）
土121
668.60m
褐灰粘質（黄褐土粒 中、明黄褐土粒・暗褐土粒 少、黒土粒 微）
土122
668.60m
褐灰粘質（黄褐土粒 中、明黄褐土粒 少、暗褐土粒・黒土粒 微）
土123
668.80m
褐灰粘質（黄褐土粒 中、明黄褐土粒 少、暗褐土粒・黒土粒 微）
土124
668.80m
灰黄褐粘質（黄褐土粒 中、明黄褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
土125
668.80m
1：灰黄褐粘質（明黄褐土粒 中、黄褐土粒 少、暗褐土粒・砂粒 微）
2：褐灰粘質（明黄褐土粒・黄褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
土126
668.80m
灰黄褐粘質（明黄褐土粒・黄褐土粒 少、黒土粒・砂粒 微）
土127
668.60m
黒褐粘質（褐土粒 中、黄褐土粒 少、暗褐土粒 微）
0
S=1/40
1m

第11図　土坑(5)


土128
669.00m
土129
668.80m
1
2
土130
668.80m
土131
668.50m
土132
668.80m
土133
668.70m
溝1
669.50m
0
S=1/40
1m

第12図　土坑(6)、溝址

第３節　遺物

１　土器・陶磁器（第３表、第 13・14 図、写真図版６～８）

今回の調査で出土した土器・陶磁器は、遺構に伴うものは少なく、多くが遺物包含層から出土した。その内訳は、縄文土器、古代の焼物、中世の焼物、近世の焼物で、中世の焼物が比較的多く出土している。その中で、図化できた 84 点を中心に土器様相を観察した。文中で用いた土器の種別・器種・時期区分は、文末に記した文献に依った。

なお、古瀬戸については、公益財団法人瀬戸市文化振興財団の河合君近氏に指導を受けた。

⑴　縄文土器（1 ～ 7）

深鉢７点を図示した。1 は頸部で、横位の隆帯２条と８の字状貼付文が施される。2 は頸部で、弧状の隆帯が施される。3 は胴部で、円弧状の構図を描く浅い沈線が施される。4 は底部で、全体が風化していることから調整痕は観察できない。1 ～ 4 は縄文時代後期とみられる。いずれも土 55 からの出土で、精良な胎土であることなどから、同一個体の可能性が考えられる。5 は口縁部で、外面は無文、内面には受口状の突帯が付く。縄文時代中期後葉とみられる。6 は胴部で、太い隆帯や沈線が施される。7 は頸部で、横位の太い隆帯２条、その上部には縦位の隆帯が施される。6・7 は縄文時代中期中葉とみられる。

⑵　古代の焼物

ア　土師器（8 ～ 10・31・32・50・59・60）

８点を図示した。内訳は、高杯４点、杯１点、壺１点、甕２点である。高杯は杯部が３点（8・31・59）、脚部の上部が１点（9）である。杯部は橙色の良好な胎土で、口縁部は外反しながら強く開き、内外面には縦方向のミガキが見られることなどから、古墳時代中期と考えられる。壺(32)は橙色の良好な胎土で、口頸部が２重口縁である。古墳時代中期と推定される。60 の甕は口縁部が残存し、黄灰色の粗い胎土である。古墳時代中期とみられる。50 は甕 B の底部で、外面底部のぎりぎりまでハケ目が施されており、5･6 期（平安時代前期／９世紀前半）とみられる。杯（10）はロクロ調整で、底部が回転糸切りにより切り離される。2 法量が見られる 12 期以降（平安時代後期／ 11 世紀代）と考えられる。

イ　黒色土器 A（11 ～ 14・33 ～ 35・51・54・70 ～ 72）

12 点を図示した。内訳は、杯 A6 点、椀５点、鉢１点である。杯 A（11・12・33・70 ～ 72）は、いずれも底部が残存しており、回転糸切りにより切り離されることから、5 ～ 8 期（平安時代前期／９世紀代）とみられる。鉢（54）は体部外面に凹孔が施される。

ウ　須恵器（36・37・55・58・81・82）

６点を図示した。内訳は、杯 A3 点、四耳壺１点、甕１点、瓶１点である。37 の杯 A は底部が回転糸切りにより切り離されることから、3 ～ 7 期（奈良～平安時代前期／８世紀中葉～９世紀中葉）とみられる。四耳壺（81）は肩部に突帯が２重に施される。甕（58）は外面に大柄の波状文が施される。瓶（82）は外面に波状文が施される。

エ　灰釉陶器（15 ～ 18・52・73・83）

７点を図示した。内訳は、碗４点、皿１点、瓶１点、器種不明１点である。碗・皿はいずれも、高台の稜が不明瞭で、底部が回転ヘラ削り、漬け掛け施釉である。虎渓山１号窯式及び丸石２号窯式（平安時代中期以降／ 10 世紀中葉以降）とみられる。瓶（52）は口縁部が残存し、口縁が強く開く。83 は口縁が水平に近く内折する特異な形態である。器種は不明であるが、袋状の器形とされる。

オ　緑釉陶器（41）

碗１点を図示した。41 は底部が残存し、暗灰色の硬質な胎土で、濃緑色の釉を施している。

⑶　中世の焼物

ア　土師質土器（26 ～ 28・49・57）

５点を図示した。内訳は皿３点、鍋１点、鍋ないしは鉢１点である。皿はいずれも手づくね成形であり、13 世紀代と推定される。ロクロ成形の皿は殿村遺跡第５次調査報告書において分類（竹原　2015）が行われている。今回の調査で出土した皿は手づくね成形ではあるが、胎土について見ていく上で参考としたい。49 は淡い橙色のやや粗い胎土であり、２群に類似する。27・28 は黄灰色の極めて精良な胎土であり、３群に類似する。57 は内耳鍋の耳部が残存し、口縁部が外反する形態と推定される。15 世紀代とみられる。26 は鍋ないしは鉢とされる。表面は淡い橙色、断面は黒色の胎土で、内面には段を設け、口縁部付近には穿孔が施される。

イ　炻器

須恵質（24）　擂鉢１点を図示した。24 は在地系であり、灰色の粗い胎土をしている。口縁部は端部に外傾する面を作り、外面は横線状のヨコナデにより窪む。擂目が確認できる。

常滑（29）　三筋壺１点を図示した。29 は灰白色の胎土で、胴部には２条の筋が確認できる。外面には自然釉の釉垂れが見られる。

ウ　無釉陶器（19・38 ～ 40・64・65・74・75）

８点を図示した。内訳は、山茶碗５点、片口鉢３点である。山茶碗は東濃型である。19・39・74 は口縁端部が外面にやや膨らむ。64 は粗く厚手の胎土で、口縁部がやや内湾する。38 は高台端部に籾殻痕が見られる。いずれも第６～７型式（13 世紀前葉～中葉）と考えられる。片口鉢は尾張型と推定される。40・75 は口縁端部の沈線の有無から第６～７型式（13 世紀前葉～中葉）とみられる。

エ　施釉陶器

古瀬戸（25・30・53・76）　４点を図示した。折縁深皿（25）は口縁部の折り返しの形態から後Ⅰ期（14 世紀後半）とみられ、断面には煤が付着している。瓶子（30）は肩に櫛描きによる平行沈線が施されることから、前Ⅲ期以降（13 世紀中葉以降）とみられる。小壺（53）は口縁部から肩部にかけて残存する。時期は不明であるが、一般に出回らない希少品との所見を得た。折縁中皿（76）は灰白色のやや粗い胎土で、鉄釉が施釉される。中期（14 世紀前半）とみられる。

陶器（20）　20 は胴部が残存し、黄灰色のやや粗い胎土をしている。外面には鉄釉が施され、底部付近には銹釉が見られる。茶入れと推定される。

オ　貿易陶磁

青磁（21・22・42・43・45・46・62・66・68・69・77・78）　20 点出土し、12 点を図示した。内訳は、碗 10 点、皿１点、盤１点である。68 は同安窯系の碗で、内面に櫛目文が施される。12 世紀中頃～後半とみられる。その他は龍泉窯系である。碗の 77・78 は、半透明の釉が施釉され、外面が無文であることから、大宰府Ⅰ類（12 世紀中頃～後半）と推定される。21 は内面にヘラ描きの文様が見られることなどから、大宰府Ⅲ－ 1B 類（13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後）と考えられる。66 は灰白色の緻密な胎土で、外面に鎬蓮弁文を有することから、大宰府Ⅲ－２類（13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後）とみられる。42・45・62 は、外面に鎬蓮弁文を有することから、大宰府Ⅳ類（14 世紀初頭～後半）で、上田分類Ｂ－Ⅰ類とみられる。43 は外面に蓮弁文を有することから、大宰府Ⅳ類（14 世紀初頭～後半）で、上田分類Ｂ－Ⅱ類とみられる。22 は白色の緻密な胎土に、明緑灰色の半透明の釉が施釉され、口縁部が外反する形態である。時期は不明

である。皿（69）は内面に櫛目文を施しており、大宰府Ⅰ－2b類（12世紀中頃～後半）とみられる。盤（46）は底部が残存し、見込みに陽刻双魚文が施される。13世紀代とみられ、威信財と考えられる。

白磁（23・44・47・48・61・63・67・79・80・84） 14点出土し、10点を図示した。内訳は、碗7点、碗ないしは皿1点、皿2点である。碗の79は、釉に貫入が見られ、口縁部がやや内湾することから、大宰府Ⅱ－3or4類（11世紀後半～12世紀前半）と考えられる。44は高台の削り出しが浅く、底部の器肉が厚いことから大宰府Ⅳ－1類（11世紀後半～12世紀前半）とみられる。84は釉の表面に気泡が入り、口縁部に肉厚な玉縁を持つことから大宰府Ⅳ類（11世紀後半～12世紀前半）とみられる。67は84に胎土や釉調が似ることから、同一個体の可能性が考えられる。47は口縁部を外側に大きく曲げる形態をしており、大宰府Ⅺ－3類（10世紀後半～11世紀中頃）と推定される。皿の23は口縁部が外反していることなどから、大宰府Ⅳ－1類（11世紀後半～12世紀前半）とみられる。48は底部が平底で、底部まで全面に施釉されていることから、大宰府Ⅸ－1類（13世紀後半～14世紀前半）とみられる。

(4) 近世の焼物（56）

56は瀬戸・美濃系の陶器で、小型の植木鉢とされる。胎土はやや粗く黄灰白色で、銅緑釉が施釉される。外面にはスタンプ印により文様が施される。底部には「ア」と墨書がされ、「部（ぶ）」と読めるのではないかと推定される。19世紀初頭とみられる。

参考文献

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2　日本貿易陶磁研究会

小平和夫　1990　「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1－　総論編』　財長野県埋蔵文化財センター

野村一寿　1990　「中世土器・陶磁器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1－　総論編』　財長野県埋蔵文化財センター

山本信夫　2000　『太宰府市の文化財 第49集 大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』　太宰府市教育委員会

藤澤良祐　2008　『中世瀬戸窯の研究』　高志書院

竹原　学　2015　「焼物」『松本市文化財調査報告№220 長野県松本市殿村遺跡－第5次発掘調査報告書－』　松本市教育委員会

第3表　土器・陶磁器観察表

図No.	地区	遺構	種別	器種器形	法量（cm）			残存度		成形・調整等	備考
					口径	底径	器高	口縁	底部		
1	C	土55	縄文土器	深鉢						ナデ	
2	C	土55	縄文土器	深鉢						ナデ	
3	C	土55	縄文土器	深鉢						ナデ	
4	C	土55	縄文土器	深鉢		9.6			1/2	ナデ	
5	C	検出面	縄文土器	深鉢				わずか		ナデ，口縁ヨコ	
6	C	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ	
7	D	検出面	縄文土器	深鉢						ナデ	
8	A	検出面	土師器	高杯	15.6			1/10		ロクロ，口縁ヨコ，ミガキ	
9	A	検出面	土師器	高杯						ロクロ，内工具	
10	A	検出面	土師器	杯		4.4			完	ロクロ，底回糸	
11	A	検出面	黒色土器A	杯		(6.2)			1/5	ロクロ，内ミ黒→磨滅，底回糸	
12	A	検出面	黒色土器A	杯		(6.8)			1/3	ロクロ，内ミ黒，底回糸	
13	A	検出面	黒色土器A	椀						ロクロ，内ミ黒→磨滅，底回糸	
14	A	検出面	黒色土器A	椀						ロクロ，内ミ黒→磨滅，底回糸	
15	A	検出面	灰釉陶器	椀		7.0			1/2	ロクロ，外回ケ，漬掛け	
16	A	検出面	灰釉陶器	椀		(6.9)			1/8	ロクロ，外回ケ，漬掛け	
17	A	検出面	灰釉陶器	椀						ロクロ，外回ケ，漬掛け	内重焼痕
18	A	検出面	灰釉陶器	皿		(4.5)			1/6	ロクロ，外回ケ，漬掛け	
19	A	検出面	無釉陶器	山茶碗か	(12.4)			1/12		ロクロ，口縁ヨコ	自然釉
20	A	検出面	陶器	茶入れか		3.0			1/2	ロクロ，底回糸，外錆釉施釉	鉄化粧か
21	A	検出面	磁器（青磁）	椀	(12.8)			1/16		ロクロ，口縁ヨコ，内ヘラ描き文様，施釉（暗緑灰）/灰	
22	A	検出面	磁器（青磁）	碗か				わずか		ロクロ，口縁ヨコ，施釉（明緑灰）/白	
23	A	検出面	磁器（白磁）	皿				わずか		ロクロ，口縁ヨコ，外回ケ，施釉（灰黄）/淡黄白	
24	A	検出面	炻器（須恵質）	擂鉢	(27.0)			1/7		ロクロ，口縁ヨコ，内工具，内すり目	

図No	地区	遺構	種別	器種器形	法量（cm）			残存度		成形・調整等	備考
					口径	底径	器高	口縁	底部		
25	A	検出面	陶器（古瀬戸）	折縁深皿	(30.4)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ、灰釉施釉	
26	A	検出面	土師質土器	鍋 or 鉢	(35.0)			1/16		ナデ、口縁ヨコ、外工具、穿孔（前）	
27	A	検出面	土師質土器	皿	(6.8)			1/4		ナデ、口縁ヨコ、指オサエ	
28	A	検出面	土師質土器	皿	(10.6)			わずか		ナデ、口縁ヨコ、指オサエ	
29	A	検出面	石器（滑）	三筋壺						ロクロ、内工具、外自然釉	
30	A	検出面	陶器（古瀬戸）	瓶子						ロクロ、内工具、外灰釉施釉	
31	A	遺物包含層	土師器	高杯	(16.4)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ、外ミ黒、内ミ黒抜	
32	A	遺物包含層	土師器	壺						ナデ、ミガキ	
33	A	遺物包含層	黒色土器A	杯		(6.0)			1/4	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
34	A	遺物包含層	黒色土器A	椀		(6.0)			わずか	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
35	A	遺物包含層	黒色土器A	椀か		(6.4)			わずか	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
36	A	遺物包含層	須恵器	杯A	(11.6)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ	
37	A	遺物包含層	須恵器	杯A		(7.4)			1/8	ロクロ、底回糸	
38	A	遺物包含層	無釉陶器	山茶碗		(5.8)			1/6	ロクロ、底回糸	高台モミ圧痕
39	A	遺物包含層	無釉陶器	山茶碗	(15.0)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ	
40	A	遺物包含層	無釉陶器	片口鉢	(27.4)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ	自然釉
41	A	遺物包含層	緑釉陶器	碗		(5.6)			1/4	ロクロ、外回ケ、底回糸、施釉（濃緑）/ 暗灰	
42	A	遺物包含層	磁器（青磁）	碗	(15.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、蓮弁文、施釉（暗緑灰）/ 灰	
43	A	遺物包含層	磁器（青磁）	碗	(16.4)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、蓮弁文、施釉（緑灰）/ 灰	
44	A	遺物包含層	磁器（白磁）	碗		(6.8)			1/3	ロクロ、外回ケ、削り出し高台、内施釉（灰白）/ 白	
45	A	遺物包含層	磁器（青磁）	碗						ロクロ、蓮弁文、施釉（暗緑灰）/ 灰	
46	A	遺物包含層	磁器（青磁）	盤						外回ケ、内双魚文、施釉（淡青灰）/ 灰	
47	A	遺物包含層	磁器（白磁）	碗				わずか		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉（灰青白）/ 灰	
48	A	遺物包含層	磁器（白磁）	皿		(7.2)			1/4	ロクロ、外回ケ、施釉（淡青白）/ 淡灰	
49	A	遺物包含層	土師質土器	皿	(11.4)			1/12		ナデ、指オサエ	
50	A	遺物包含層	土師器	甕		(9.4)			1/16	ナデ、外タテハケ	
51	A	トレンチ	黒色土器A	椀か	(16.8)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒→磨滅	
52	A	トレンチ	灰釉陶器	瓶	(15.8)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
53	A	トレンチ	陶器（古瀬戸）	小壺	(1.6)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、灰釉施釉	
54	B	検出面	黒色土器A	鉢か				わずか		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒→磨滅、外凹孔	
55	B	検出面	須恵器	杯A	(11.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
56	B	検出面	陶器	植木鉢		(10.2)			1/3	ロクロ、外回ケ、外銅緑釉施釉	底墨書
57	B	検出面	土師質土器	内耳鍋						耳部貼り付け→ナデ	耳部
58	B	検出面	須恵器	甕						ロクロ、ナデ→外波状文	
59	B	遺物包含層	土師器	高杯				わずか		ロクロ、口縁ヨコ、ミガキ	
60	C	遺物包含層	土師器	甕	(16.4)			わずか		ナデ、口縁ヨコ	
61	D	検出面	磁器（白磁）	碗						ロクロ、外回ケ、施釉（灰青白）/ 白	
62	D	排土	磁器（青磁）	碗						ロクロ、外蓮弁文、施釉（暗緑灰）/ 灰	
63	D	排土	磁器（白磁）	碗 or 皿						ロクロ、外回ケ、施釉（黄灰）/ 黄灰白	
64	E	検出面	無釉陶器	山茶碗	(15.4)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ	
65	E	検出面	無釉陶器	片口鉢		(9.2)			わずか	ロクロ、外回ケ	内重焼痕、内自然釉
66	E	検出面	磁器（青磁）	碗						ロクロ、外蓮弁文、施釉（淡緑灰）/ 灰白	
67	E	検出面	磁器（白磁）	碗						ロクロ、外回ケ、施釉（灰黄）/ 灰	
68	E	検出面	磁器（青磁）	碗						ロクロ、外回ケ、内櫛描文、施釉（暗緑灰）/ 灰	
69	E	検出面	磁器（青磁）	皿		(3.8)			1/3	ロクロ、外回ケ、内櫛描文、施釉（淡青灰）/ 灰	
70	E	遺物包含層	黒色土器A	杯		(5.4)			1/4	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
71	E	遺物包含層	黒色土器A	杯		(5.4)			1/6	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
72	E	遺物包含層	黒色土器A	杯		(5.6)			1/4	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
73	E	遺物包含層	灰釉陶器	碗		(8.2)			1/8	ロクロ、底ヘラ切り、漬掛け	
74	E	遺物包含層	無釉陶器	山茶碗	(12.2)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ	内自然釉
75	E	遺物包含層	無釉陶器	片口鉢	(26.8)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ	
76	E	遺物包含層	陶器（古瀬戸）	折縁中皿	(16.0)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、鉄釉施釉	
77	E	遺物包含層	磁器（青磁）	碗	(12.8)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉（暗緑灰）/ 灰	
78	E	遺物包含層	磁器（青磁）	碗か	(11.0)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉（暗緑灰）/ 灰	
79	E	遺物包含層	磁器（白磁）	碗	(15.6)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施釉（暗灰白）/ 灰	
80	E	遺物包含層	磁器（白磁）	碗						ロクロ、外回ケ、施釉（暗灰白）/ 灰	
81	E	遺物包含層	須恵器	四耳壺						ロクロ、タタキ	外降灰
82	E	遺物包含層	須恵器	甕						ロクロ、波状文	
83	E	遺物包含層	灰釉陶器	不明	(8.6)			1/16		ロクロ、口縁ヨコ、施釉	
84		表土	磁器（白磁）	碗	(15.0)			1/16		ロクロ、玉縁状口縁、外回ケ、施釉（灰黄）/ 灰	

【略称凡例】

成形・調整等

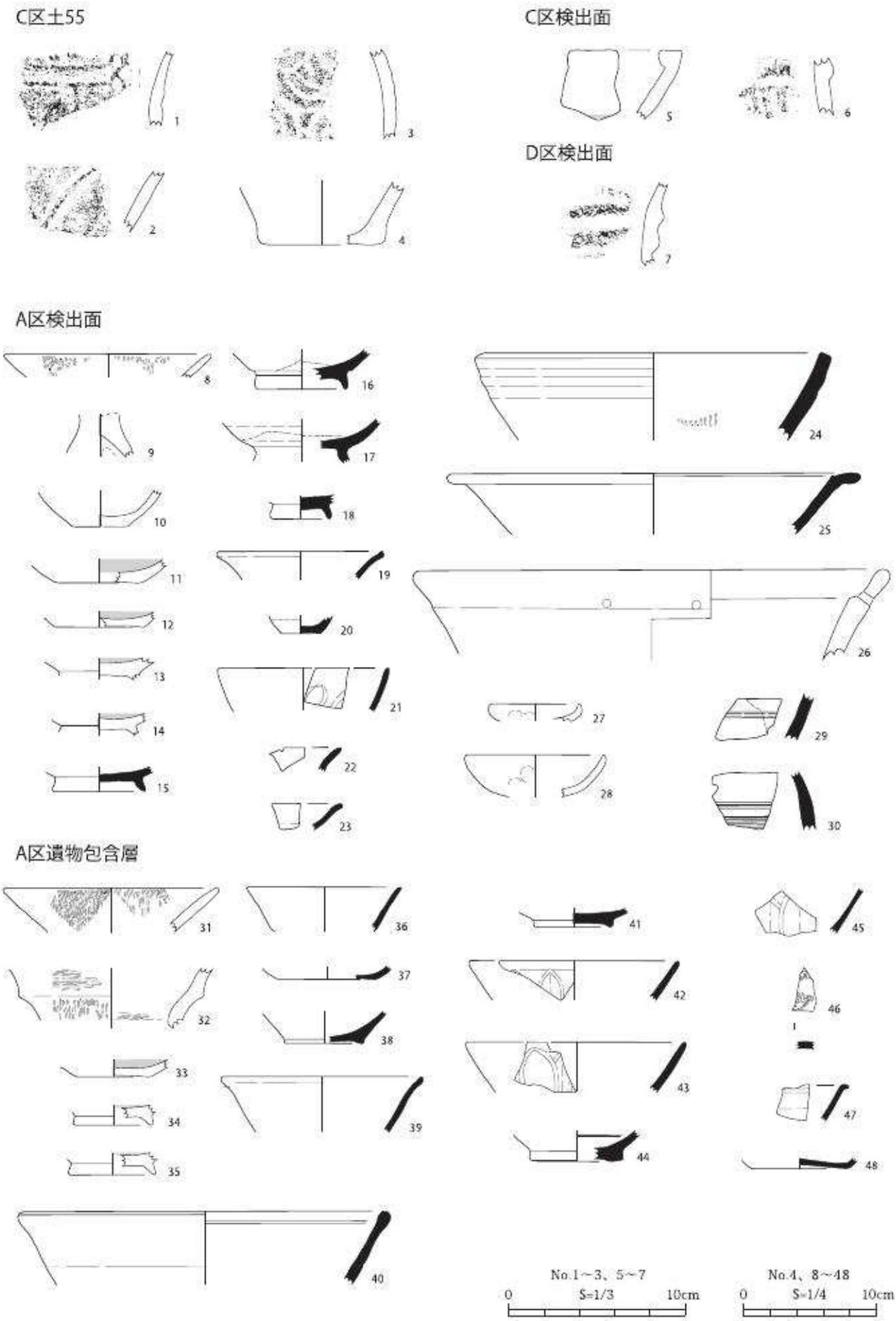
ナデ：指ナデ　ロクロ：ロクロナデ　ヨコ：ヨコナデ　工具：工具ナデ　回ケ：回転ケズリ　回糸：回転糸切り　ハケ：ハケメ

ミ黒：ミガキのち黒色処理　黒抜：黒色処理が被熱等で失われたもの

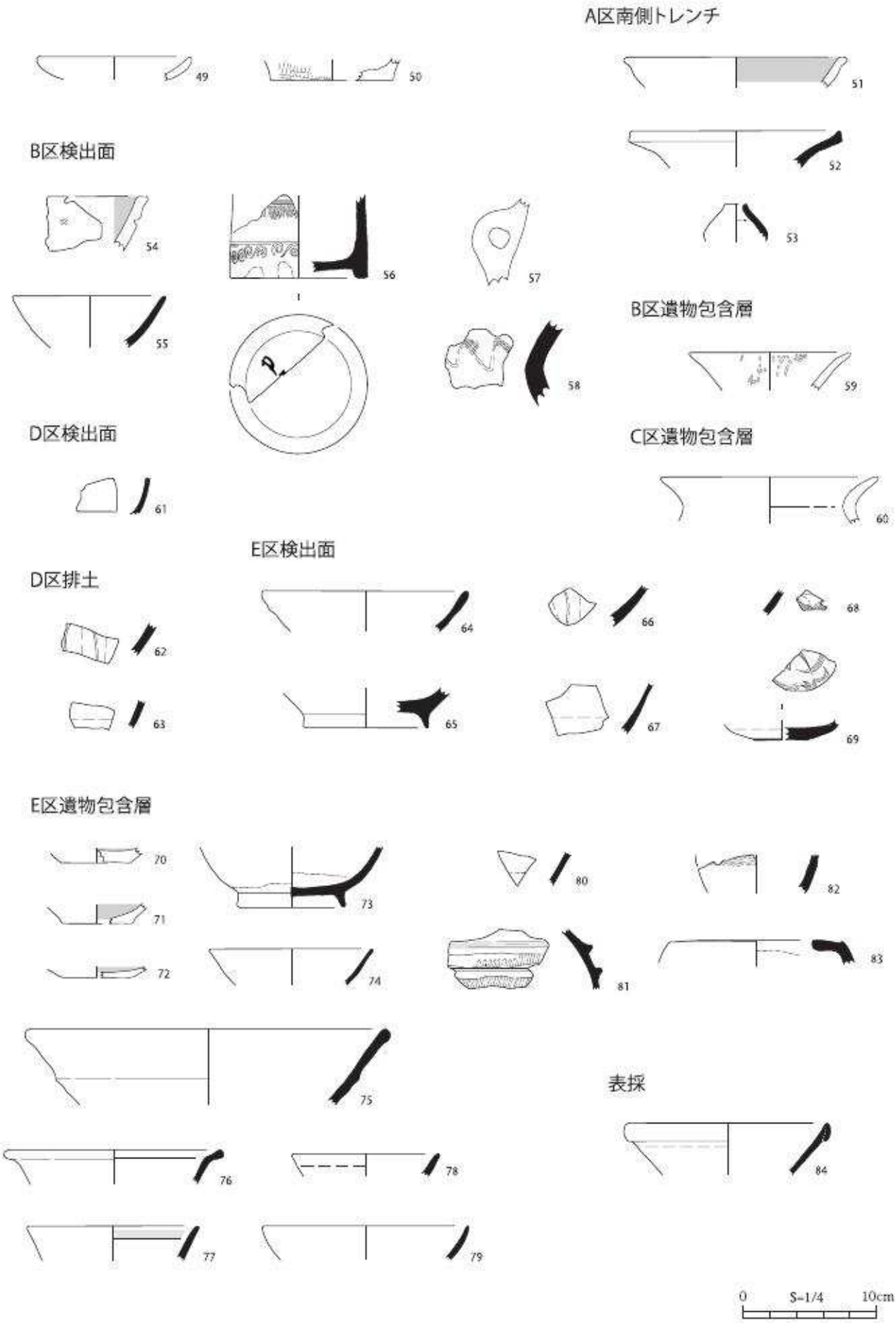
緑釉陶器・青磁・白磁は、施釉（釉の色）/ 胎土の色を表記

備考

穿孔（前）：焼成前穿孔


C区土55
C区検出面
D区検出面
A区検出面
A区遺物包含層
No.1～3、5～7
0 S=1/3 10cm
No.4、8～48
0 S=1/4 10cm

第 13 図　土器・陶磁器 (1)


A区南側トレンチ
B区検出面
B区遺物包含層
D区検出面
C区遺物包含層
E区検出面
D区排土
E区遺物包含層
表採
0 S=1/4 10cm

第 14 図　土器・陶磁器 (2)

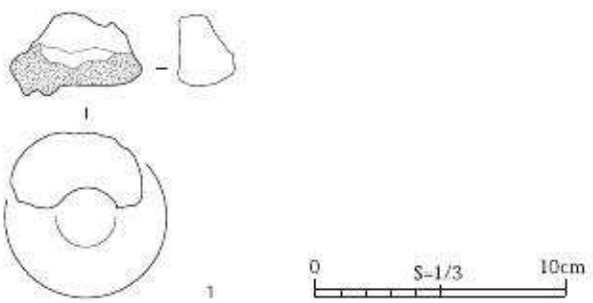
2　土製品（第４表、第 15 図、写真図版８）

土製品は羽口が２点出土し、１点を図示している。これらの出土地点・寸法等については一覧表を参照されたい。羽口はいずれも小破片で、全形を窺えるものはない。1・2 ともに外面に鉄滓の付着が見られる。

第４表　土製品一覧表

図 No.	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
1	1	E	検出面	東側	羽口	<3.0>	<5.2>	2.2	34.2	鉄滓付着
	2	試掘 5tr			羽口か	<3.2>	<3.0>	<2.3>	12.1	鉄滓付着

＜　＞：残存値



第 15 図　土製品

3　石器・石製品（第５表、第 16 図、写真図版８・９）

今回の調査で、合計 28 点の石器･石製品が出土した。器種の内訳は、石鏃３点、掻器２点、石匙１点、硯１点、楔形石器１点、石核６点、二次加工ある剥片２点、微細剥離ある剥片２点、剥片・砕片９点、不明１点がある。このうち遺存状態のよい定型石器を中心に７点を図示し、概要を述べる。それ以外のものは一覧表を参照されたい。石器・石製品の帰属時期は共伴する土器に準じるものと考えられる。

石鏃（1 ～ 3）　３点とも、黒曜石製の無茎凹基鏃である。1 は、先端が鋭く、基部の調整は少ない。両脚部に欠損が見られる。2 は、尖頭部先端と両脚部に欠損が見られる。3 は、完形の鍬形鏃で、先端は鈍い。表・裏面の基部付近と、脚部の一部に自然面が観察される。

掻器（4・5）　4・5 は、刃部の角度が急斜度 (概ね 60 度以上) のため、掻器と分類した。2 点とも完形の黒曜石製である。4 は、2 縁辺に刃部がある。両面からの加工が見られるが、主に腹面からの加撃によって刃部を作出している。刃部の形態は、内湾刃と直刃の複合である。5 も、2 縁辺に刃部がある。刃部は片面加工で、背面からの加撃によって作出されている。刃部の形態は、外湾刃と直刃の複合である。腹面の末端部に自然面が見られる。

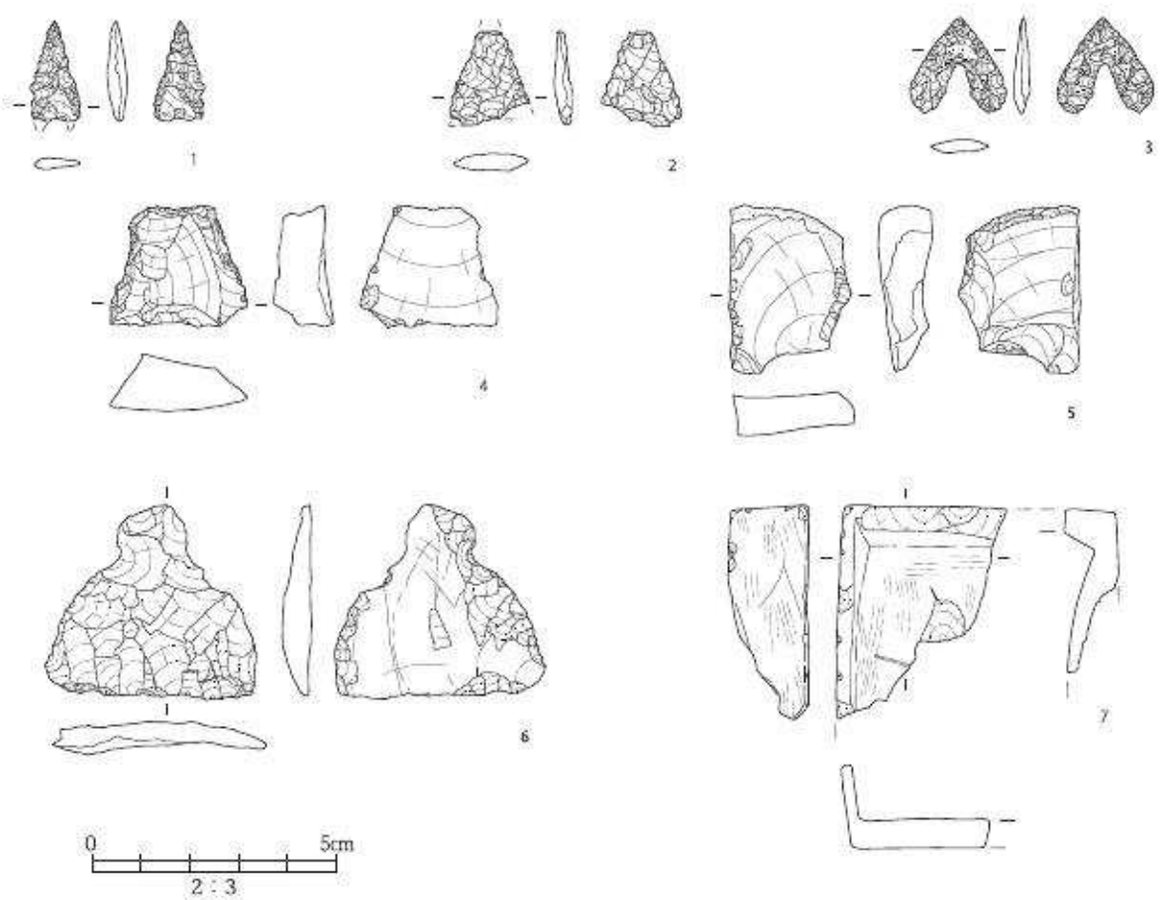
石匙（6）　6 は、チャート製の石匙で完形である。平面形は横型 (刃線が茎の主軸に対して、ほぼ直交するもの) である。刃部の形状は、直刃で、両面からの加工が見られるが、裏面の加工は、表面の加工に比べると少ない。明瞭なつまみ部をもつ。

硯（7）　7 は、頁岩製で、海部の一部のみが残存している。大きく欠損しているので、明瞭ではないが、内・外形は、長方形と想定される。底部裏面も破損が大きく、明瞭ではないが、脚はなく平坦であると推測される。側面の縁の幅は狭く、斜め上方に傾斜しており、横断面は逆台形である。

第５表　石器・石製品一覧表

ID	図No.	地区	遺構	出土地点	種類	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
1		A	検出面	中央	剥片	黒曜石	(1.11)	2.04	0.66	1.5	1 辺折れ	
2		A	検出面	中央	不明	粘板岩	(5.11)	3.63	0.27	8.3	側面のみ残	砥石か
3		A	検出面	西	二次加工ある剥片	チャート	4.18	1.40	1.14	6.7	完形	二次加工 1 縁辺
4		A	検出面	北東	石核	黒曜石	2.34	3.47	2.26	20.9	完形	打面数 3 面
5		B	検出面		砕片	黒曜石	(1.55)	(0.87)	0.21	0.4	1 辺折れ	
6		E	検出面	北東	剥片	黒曜石	(2.61)	(2.34)	(1.37)	6.1	1 辺折れ	
7	7	E	検出面		硯	頁岩	(4.20)	(3.28)	1.60	14.8	海部の一部のみ残	横断面逆台形
8	5	E	検出面	西	掻器	黒曜石	2.80	2.00	0.82	5.6	完形	刃部 2 縁辺
9		6tr	検出面		石核	チャート	4.19	4.50	1.56	34.3	完形	打面数 2 面
10		A	遺物包含層		石核	黒曜石	1.85	4.19	1.43	11.5	完形	打面数 1 面
11	3	A	遺物包含層		石鏃	黒曜石	1.85	1.90	0.28	0.7	完形	無茎凹基、鎬形鏃
12		A	遺物包含層		剥片	黒曜石	1.64	1.52	0.74	1.2	完形	
13		B	遺物包含層		剥片	黒曜石	2.25	1.65	0.60	1.6	完形	縦長剥片
14		B	遺物包含層		砕片	黒曜石	(1.43)	(1.63)	0.15	0.2	1 辺折れ	
15	4	C	遺物包含層		掻器	黒曜石	2.37	2.73	1.10	6.7	完形	刃部 2 縁辺
16		C	遺物包含層		微細剥離ある剥片	黒曜石	(2.41)	1.67	0.48	1.8	1 辺折れ	微細剥離 2 縁辺
17		C	遺物包含層		剥片	黒曜石	(2.63)	(1.08)	(0.63)	1.2	1 辺折れ	
18	1	E	遺物包含層		石鏃	黒曜石	(1.95)	(0.94)	(0.36)	0.5	両脚部折れ	無茎凹基、基部調整少ない
19	2	E	遺物包含層		石鏃	黒曜石	(1.80)	(1.58)	0.29	0.8	尖頭部先端と両脚部折れ	無茎凹基
20	6	E	遺物包含層		石匙	チャート	3.22	3.55	0.53	5.6	完形	横形、直刃、つまみ部明瞭
21		E	遺物包含層		二次加工ある剥片	黒曜石	(1.79)	(1.42)	(0.61)	1.1	1 辺折れ	二次加工 1 縁辺
22		E	遺物包含層		微細剥離ある剥片	チャート	2.86	4.06	0.84	9.9	完形	微細剥離 1 縁辺
23		E	遺物包含層		剥片	黒曜石	(1.43)	(1.63)	0.50	1.5	2 辺折れ	
24		C	表土		石核	黒曜石	1.91	2.04	1.81	8.1	完形	打面数 3 面、打面調整あり
25		D	調査区西壁		石核	黒曜石	2.33	4.87	2.01	14.4	完形	打面数 2 面、打面調整あり、微細剥離 1 辺
26		D	調査区西壁		剥片	黒曜石	(2.26)	(1.86)	(0.94)	2.9	2 辺折れ	
27		試掘 13tr			石核	黒曜石	1.65	2.77	1.62	5.9	完形	打面数 2 面
28		D	排土		楔形石器	黒曜石	2.67	3.29	1.48	8.8	完形	石核素材、剥離方向上下、つぶれ位置上下・左右

※（　）内数値は残存値を表す。



第 16 図　石器・石製品

4　金属製品（第６表、第 17 図、写真図版９）

(1)　概要

金属製品は 21 点出土し、内訳は鉄製品 20 点、銭貨１点である。その他、鉄滓が 71.2 ｇ、銅滓が 7.1 ｇ出土している。これらの出土地点・器種・寸法等については一覧表を参照されたい。

器種は鉄製品が釘・その他不明品、銭貨である。その内、比較的残存状態の良好なもの、特徴的なものを中心に６点を図示している。遺物の記載にあたっては図番号を使用している。また、遺物の形状や構造については、Ｘ線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

(2)　鉄製品

釘（１～３）　６点が出土し、３点を図示している。頭部が残存するものは２点のみである。小松氏の頭部形状からみた釘の分類によると、１は基部上端を広く叩き伸ばしているためＶａ類と推定される。２は断面が方形で基部上端を曲げているためⅣａ類に近い形状と推定される。

不明品（４・５）　14 点が出土し、２点を図示している。４は先端が丸く湾曲しており、端部に向かい厚みが減じる。５は円錐形を呈し、端部の片側がラッパ状に開く。錆膨れにより断面は不明瞭であるが、筒状を呈する可能性が高い。

(3)　銭貨

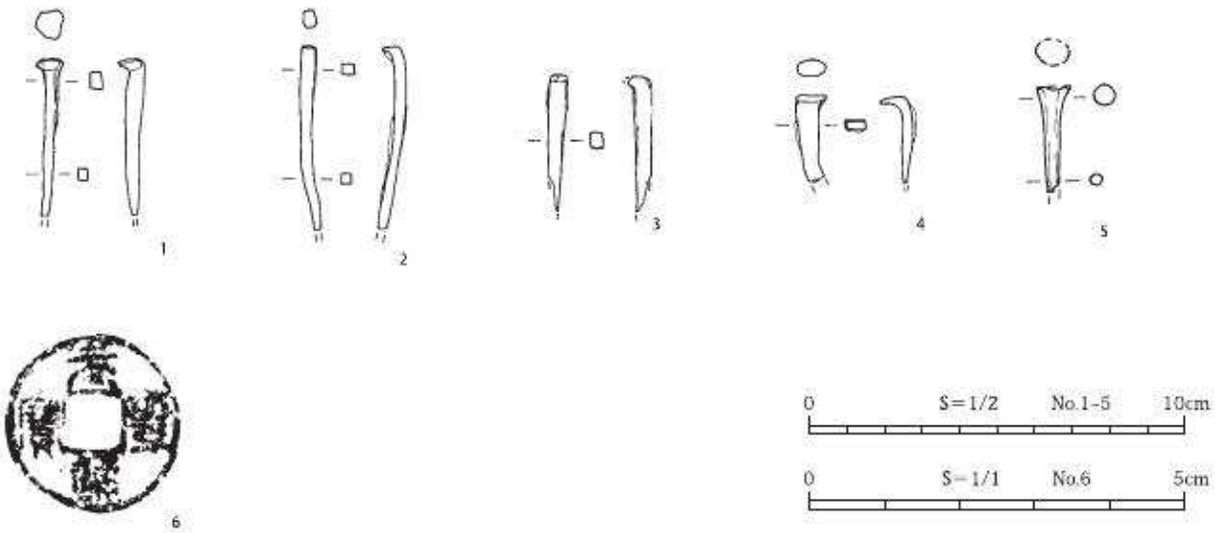
銅銭（６）　１点が出土し、図示している。６の元豊通宝は初鋳 1078 年の宋銭である。

参考文献

小松　望　1989 「金属製品と鍛冶資料」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書３－塩尻市内その２－　吉田川西遺跡』財長野県埋蔵文化財センター

第６表　金属製品一覧表

図No.	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	金属種別	備考
	1	A	遺物包含層	No.06	不明	33.6	6.2	5.9	1.5	Fe	断面円形／棒状製品の先端か
	2	A	遺物包含層	No.08	釘か	33.3	3.6	3.6	0.6	Fe	断面方形／棒状製品
	3	A	遺物包含層		滓	-	-	-	4.1	Fe	
	4	A	遺物包含層		不明	45.0	5.0	5.0	1.6	Fe	断面円形／棒状製品の先端か／緩く湾曲する
	5	A	遺物包含層		不明	51.1	8.3	7.9	6.1	Fe	断面方形／棒状製品
4	6	A	遺物包含層		不明	23.4	9.2	7.2	1.2	Fe	片方の端部が丸く湾曲する／端部欠損
	7	A	遺物包含層		不明	63.0	8.4	6.5	8.0	Fe	断面方形／棒状製品／への字状に曲がる
	8	A	遺物包含層		不明	17.0	5.3	4.6	0.6	Fe	断面方形／棒状製品
	9	A	検出面	南中央	釘か	32.0	5.6	4.5	1.2	Fe	断面方形／棒状製品の先端か／端部が折れ曲がる
	10	A	検出面	中央南側	滓	-	-	-	67.1	Fe	
	11	A	検出面	南東	不明	24.4	6.0		1.0	Fe	断面方形／棒状製品
	12	A	検出面	南東	不明	19.5	4.1	3.8	0.4	Fe	断面方形／棒状製品
	13	A	検出面	南東	不明	16.2	4.0	3.5	0.4	Fe	断面方形／棒状製品
	14	A	検出面	南東	不明	49.9	10.7	6.1	10.1	Fe	断面長方形／棒状製品／わずかに反る
1	15	A	検出面	西中央	釘	42.3	7.8	6.9	1.6	Fe	断面長方形／頭部の一部と先端欠損
3	16	A	検出面	西側	釘か	35.5	6.6	5.9	1.6	Fe	断面方形／棒状製品／頭部と先端欠損
	17	E	遺物包含層		不明	17.1	4.4	2.8	0.3	Fe	錆による膨張で断面不明／Ｙ字状に枝分かれする
	18	E	遺物包含層	No.03	釘か	43.0	4.5	4.0	1.4	Fe	断面方形／端部が垂直に折れ曲がる
	19	E	遺物包含層		不明	21.2	6.7	4.1	1.2	Fe	断面長方形／棒状製品
	20	E	遺物包含層		滓	-	-	-	7.1	Cu	
2	21	E	遺物包含層		釘	49.4	6.0	4.5	1.9	Fe	断面方形／端部欠損
5	22	E	遺物包含層	No.08	不明	28.0	8.9	7.3	1.1	Fe	断面不明／端部がラッパ状に開く
6	23	E	検出面	No.02	元豊通宝	24.5	24.0	1.8	4.2	Cu	完形
	24	E	検出面	東側	不明	35.0	8.1	7.5	3.6	Fe	断面方形／棒状製品



第 17 図　金属製品

第Ⅳ章　総括

1　調査成果

今回の調査では、縄文時代から中世にかけての遺物、中でも、中世の遺物が多数得られた。以下に概略を列記し、調査のまとめとしたい。

① 遺構は土坑が複数確認されたが、竪穴建物址や掘立柱建物址のような建物址は確認されなかった。故に、今回の調査地は居住域ではないとされる。

② 遺物は縄文時代中期中葉から中世にかけての幅広い時期のものが遺物包含層を中心に出土した。中でも中世の遺物が多数出土しており、調査地付近には中世の遺構がある可能性が示唆される。

③ 中世の遺物は青磁片・白磁片といった貿易陶磁も多数得られた。中には、見込みに陽刻双魚文が施された青磁盤が出土するなど、威信財を所持できるような有力者の存在が窺い知れる。

2　岡田地区の中世の発掘調査

今回の調査で中世の遺物が多数出土したことから、本項では岡田地区の遺跡で確認した中世の遺構・遺物についてまとめたい。中世の遺構・遺物を確認した遺跡は第７表を参照されたい。

第７表　岡田地区で確認した中世の遺跡

遺跡名	出土遺構・遺物
岡田田中遺跡	土坑、検出面、遺物包含層
	土師質土器（皿・内耳鍋）、炻器（須恵質・常滑）、無釉陶器（山茶碗・片口鉢）、古瀬戸、青磁、白磁
堂田遺跡	検出面
	土師質土器（内耳鍋）、山茶碗
塩辛遺跡	ピット
	銭貨
矢作遺跡	土坑
	銭貨
岡田町遺跡	竪穴状遺構、火葬墓、墓址、土坑
	土師質土器（内耳鍋）、古瀬戸（天目茶碗・花瓶）、銭貨
二反田遺跡	掘立柱建物址１棟
下出口遺跡	墓址、土坑
	土師質土器（内耳鍋）、青磁、銭貨
岡田西裏遺跡	表採
	羽釜
岡田宮の前遺跡	竪穴建物址１軒
	土師質土器（皿）、山茶碗
伊深城址	
小宮山城址	
岡田氏館址	
慶弘寺跡	

岡田地区で中世の遺構・遺物を確認した遺跡は、今回の岡田田中遺跡の成果を含めて、現在までに９遺跡あるが、縄文時代から平安時代までの遺構・遺物に比べると、確認数は多くない。遺構は岡田宮の前遺跡で竪穴建物址、二反田遺跡で掘立柱建物址、岡田町遺跡・下出口遺跡で墓址などが確認されている。遺物はこれらの遺構に伴うものが大半で、土師質土器（皿・内耳鍋）、山茶碗、古瀬戸、青磁、銭貨が出土している。特筆するものとして、下出口遺跡の土 394 からは、ほぼ完形の内耳鍋が横倒しの状態で出土している。また、墓址や墓址と推定される土坑の中には、複数の銭貨が出土するものもある。これらの成果から、岡田地区には中世の集落が存在した可能性が高いとみられている。

今回の調査では、中世と断定できる遺構は確認されていない。しかし、遺物は遺物包含層を中心に土師質土器、炻器、陶磁器類などが多数出土している。また、威信財とみられる青磁盤が出土するなど、貴重な資料を得ることができた。

今回の調査地周辺に目を向けてみると、西には岡田氏館址、北西には岡田神社があるが、岡田氏館址は現在までに本調査が実施されておらず、その実態は不明である。今回、付近にある本遺跡から中世の遺物が多数出土したことは、今後、本遺跡及び岡田地区の中世の様相を考える上で、非常に重要な成果を得ることができたといえよう。

最後に、本調査に際し多大なるご協力とご理解をいただいた松本市岡田東土地区画整理組合並びに関係機関、岡田東区町会をはじめとする地元の方々、そして調査スタッフに感謝の意を表して本書の締めくくりとしたい。

写　真　図　版

調査地遠景（南から）

調査地遠景（北西から）

写真図版 2

A 区、I tr 全景（南が上）

B 区全景（南が上）

C 区全景（北が上）

D・E 区、2tr 全景（東が上）

写真図版 4

5 tr 全景（西から）

6 tr 全景（東から）

土 8 完掘状況（南から）

土 9 完掘状況（南東から）

土 15 完掘状況（東から）

土 25 断面（東から）

土 30 断面（東から）

土 41 完掘状況（南東から）

土 49 完掘状況（南東から）

土 54 完掘状況（南から）

土 65 完掘状況（北東から）

土 93 完掘状況（南東から）

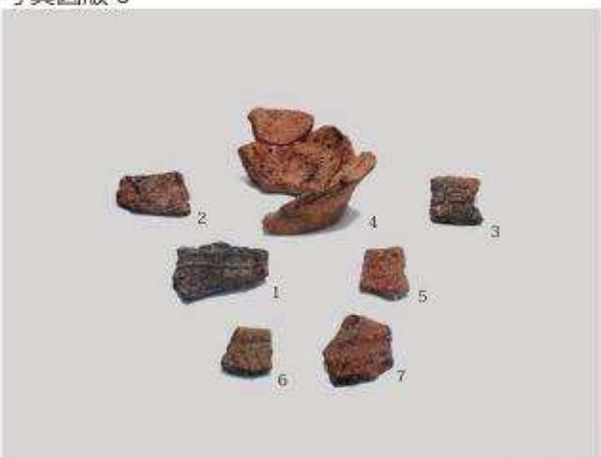
土 107 完掘状況（東から）

土 130 完掘状況（南から）

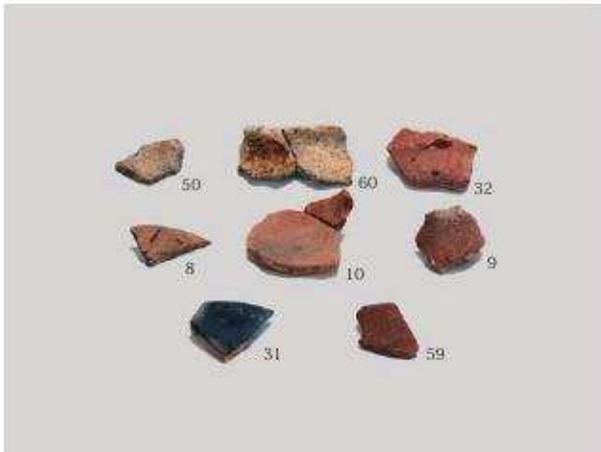
溝 1 完掘状況（東から）

青磁盤（46）出土状況（西から）

写真図版 6



縄文土器



土師器

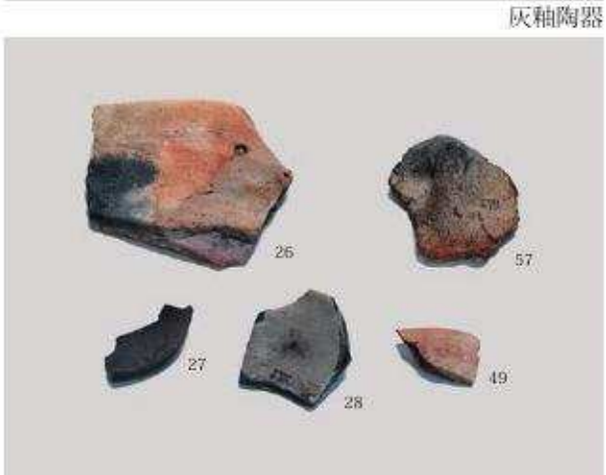
黒色土器

黒色土器 鉢（54）

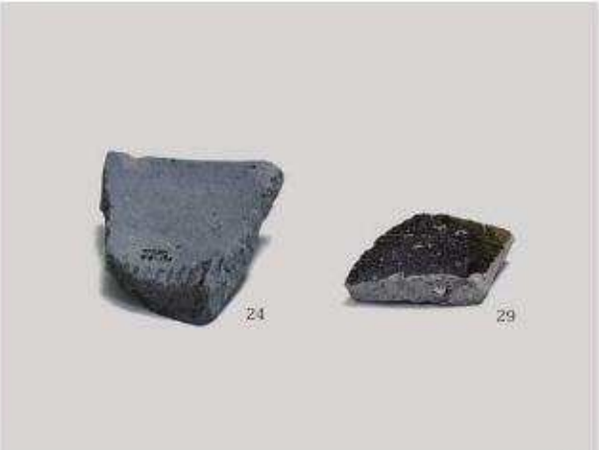
須恵器

灰釉陶器

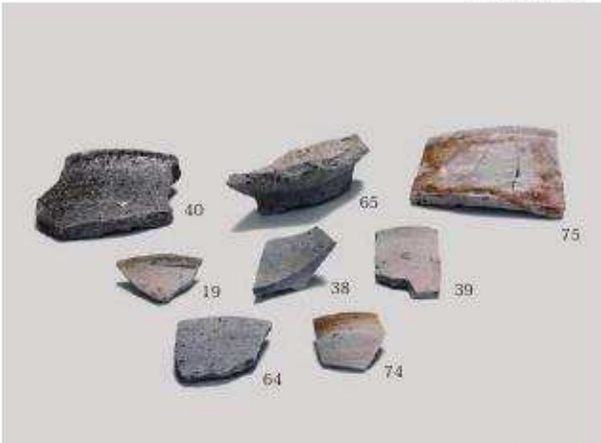
緑釉陶器 碗（41）



土師質土器



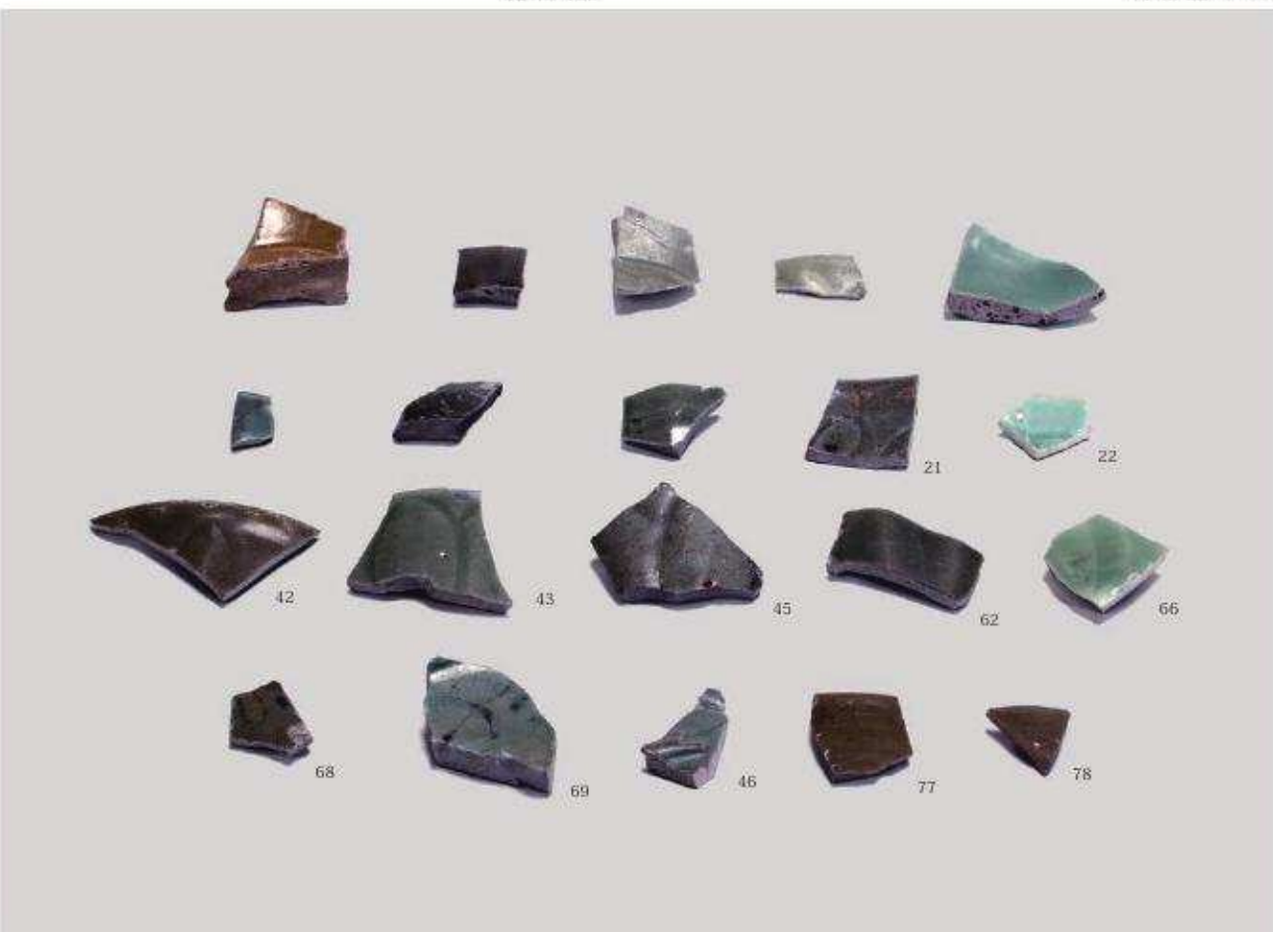
炻器



無釉陶器

施釉陶器

青磁 盤（46）



青磁

写真図版 8

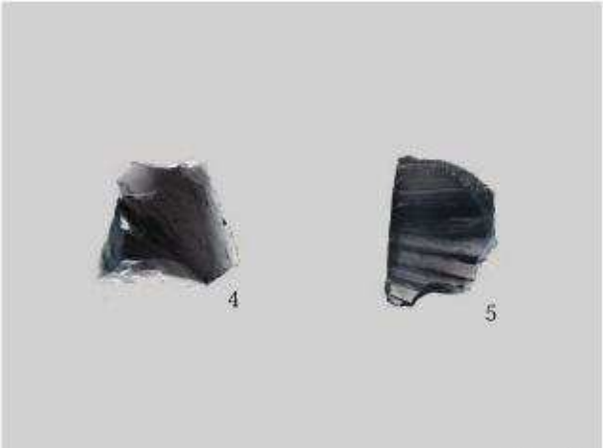
白磁

陶器 植木鉢（56）

陶器 植木鉢（56）

土製品 羽口（1）

石器 石鏃



石器 掻器

石器 石匙（6）S=2/3

石製品 硯（7）S=2/3

金属製品

銅銭（6）

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　おかだたなかいせき　だい２じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　岡田田中遺跡　第２次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№ 233
編著者名	小山奈津実、白鳥文彦、古林舞香
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒 390-8620　松本市丸の内３番７号　TEL 0263-34-3000（代） （記録・資料保管：松本市立考古博物館　松本市中山 3738 番地１　TEL 0263-86-4710）
発行年月日	2019（平成 31）年３月 26 日（平成 30 年度）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おかだたなか 岡田田中	ながのけんまつもとし 長野県松本市 おおあざおかだ 大字岡田 しもおかだ 下岡田 76 番地ほか	20202	12	36 度 15 分 59 秒	137 度 58 分 33 秒	2016 年 8 月 8 日 ～ 2017 年 2 月 24 日	2,088㎡	松本市岡田東 土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岡田田中	集落跡	縄文 ・ 古墳 ～ 中世	土坑：132 基 溝址：１条	[土器・陶磁器] 縄文土器 土師器 黒色土器 須恵器 土師質土器 炻器（須恵質・常滑） 陶器（灰釉・緑釉・無釉・古瀬戸） 磁器（青磁・白磁） [土製品] 羽口 [石器・石製品] 石鏃 石匙 硯 [金属製品] 釘 銭貨	

要約	・松本市岡田東土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として実施した。 ・集落跡を調査し、遺物包含層を中心に縄文時代から中世にかけての遺物を得た。中でも中世の遺物が多数出土しており、調査地付近には中世の遺構がある可能性が示唆される。特殊な遺物として、威信財とみられる、見込みに陽刻双魚文が施された青磁盤が出土した。今回の調査により、本遺跡及び岡田地区の中世の様相を考える上で重要な資料が得られた。

松本市文化財調査報告　№233
長野県松本市
岡 田 田 中 遺 跡
－第２次発掘調査報告書－

発行日　平成 31 年３月 26 日
発行者　松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内３番７号
印　刷　有限会社松本プロセス